

PANORAMA

T4 T6



日本語ユーザーガイド
www.hookup.co.jp

nektar

目次

安全にお使い頂くための注意.....	3
イントロダクション	4
同梱内容.....	4
Panorama T4/T6 主な機能	4
システム条件.....	4
製品概要.....	5
さあ始めましょう.....	6
接続と電源.....	6
Nektar DAWインテグレーション	6
インターナルモード.....	8
概要.....	8
インターナルモードコントロールと割り当て方法.....	8
グローバル設定.....	10
ディスプレイボタンメニュー	12
パッド.....	14
リピート.....	15
コントロールエディット (Control Edit)	16
その他設定	19
DAWコントロール	20
概要.....	20
Nektar DAWインテグレーションとは	20
モードとナビゲーション	21
Mixer (ミキサー) モード	21
Instrument (インストゥルメント) モード	22
Multi (マルチ) モード	22
Internal (インターナル) モード	22
ドラムパッド	22
DAW設定ガイド.....	23
BitWig	23
Cubase/Nuendo	28
GarageBand	31
Logic.....	33
Reaper.....	36
Reason	39
Digital Performer (MCUモード)	42
FL Studio (MCUモード)	44
Ableton Live (MCUモード)	46
Studio One (MCUモード)	48
ProTools	50
Nektarine.....	52
Nektarineとは	52
仕組みと設定	53
インストゥルメントを開く	54
インストゥルメントのコントロール設定	54
プリセット.....	56
プリセットブラウザー.....	56
NektarineとPanorama T	59

安全にご利用頂くための注意

本製品を安全にご利用頂くため、食物、水分や液体等から遠ざけ、製品の動作に影響を及ぼす要素の混入を防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご仕様は避けて下さい。また、本ガイドで解説する範囲内の用途でご使用下さい。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するように設計されています。本製品は、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性や、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の利用によって、ラジオやテレビの受信に干渉を起こした場合、ユーザーは次のいずれかの方法で干渉を解消します：

- ・ 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- ・ 装置と受信機の距離を離します。
- ・ 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- ・ 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



CALIFORNIA PROP65 WARNING: 本製品は人体に影響を及ぼす可能性がある化学物質が使用されています。ただしこれは微量で、無視できるレベルです。また使用上、問題のない範囲内にあります。

詳しい情報は：www.nektartech.com/prop65

Panoramaのファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されま

す。日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2018 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.

NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

製品に関するすべての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- ・ 修理に関する全ての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- ・ 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをお使い下さい。
- ・ クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性があります。

修理に関する情報はこちらをご覧ください：<https://hookup.co.jp/support/>

イントロダクション

この度は、Nektar Panorama T4/T6 コントローラーをお求め頂き、誠にありがとうございます。

Panorama T4及びT6は、49鍵と61鍵タイプのキーボードコントローラーで、主要なDAWのための設定ソフトウェアが付属しています。Nektarが誇るDAWインテグレーションにより、Panorama T4/T6とコンピューターの組合せによって、明快な操作と機能アクセスが可能になります。また、独自機能"Nektarine"によって、インストゥルメントプラグインをより詳細に制御することが可能です(Nektarineは、Nektar DAWインテグレーションをインストールしてもしなくても実行できます)。もちろん、ユーザー自身設定や構成をカスタマイズすることも可能です。

Panorama T4/T6を音楽制作や演奏へお役立て頂ければ幸いです。

同梱内容

Panorama Tには以下のアイテムが同梱されています：

- Panorama T4/T6コントローラー本体
- クイックガイド(英語)
- USBケーブル(コンピューターとの接続用)
- 同梱ソフトウェア用ライセンスコード
- 日本語のご案内等の書類

同梱物が不足あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡下さい。

<https://hookup.co.jp/support/>

Panorama T4/T6 主な機能

- 49/61鍵 第2世代シンセアクション・キーボード(ペロシティ/アフタータッチ付き)
- 5ペロシティカーブ(ペロシティの固定調整可能)
- 8ペロシティ、プレッシャー対応LED(緑/赤/オレンジ)パッド
- 内蔵タイミングエンジンによるキー、パッドのノートリビート
- 9 MIDIアサインナブル30mmフェーダー
- 8 MIDIアサインナブルLED(赤)ボタン
- 8 MIDIアサインナブルエンコーダー
- 4つのナビゲーションボタン
- 6トランスポートLEDボタン
- ピッチベンド、モジュレーションホイール(割り当て可能)
- オクターブ アップ/ダウン ボタン
- 4モードボタン:ミキサー、インストゥルメント、マルチ、インターナル
- ユーザー設定可能な10プリセット
- 8パッドマッププリセット
- パッドアサイン1-8と9-16を切り替えるパッドバンクボタン
- 128x64ピクセルLCDディスプレイと4ディスプレイボタン
- 現在のパラメータ行を大きなフォントで表示するフォーカスボタン
- MIDIアウト端子(MIDIケーブルは含まれません)
- 1/4"フットスイッチ端子(オプション)
- 1/4" TRSエクスプレッションペダル端子(オプション)
- USBポート、USBバスパワー
- MCU (Mackie® Control Universal)サポート
- Nektar DAWインテグレーション(ユーザー登録が必要)
- Nektarine VSTiプラグインとライブラリマネージャー(ユーザー登録が必要)

システム条件

PanoramaはUSBクラスコンプライアントのMIDI機器として、Windows XP以降またはMac OS X環境で扱えます。DAWインテグレーションはWindows 7/8/10以降、Mac OS X 10.7以降の環境でインストールすることができます。

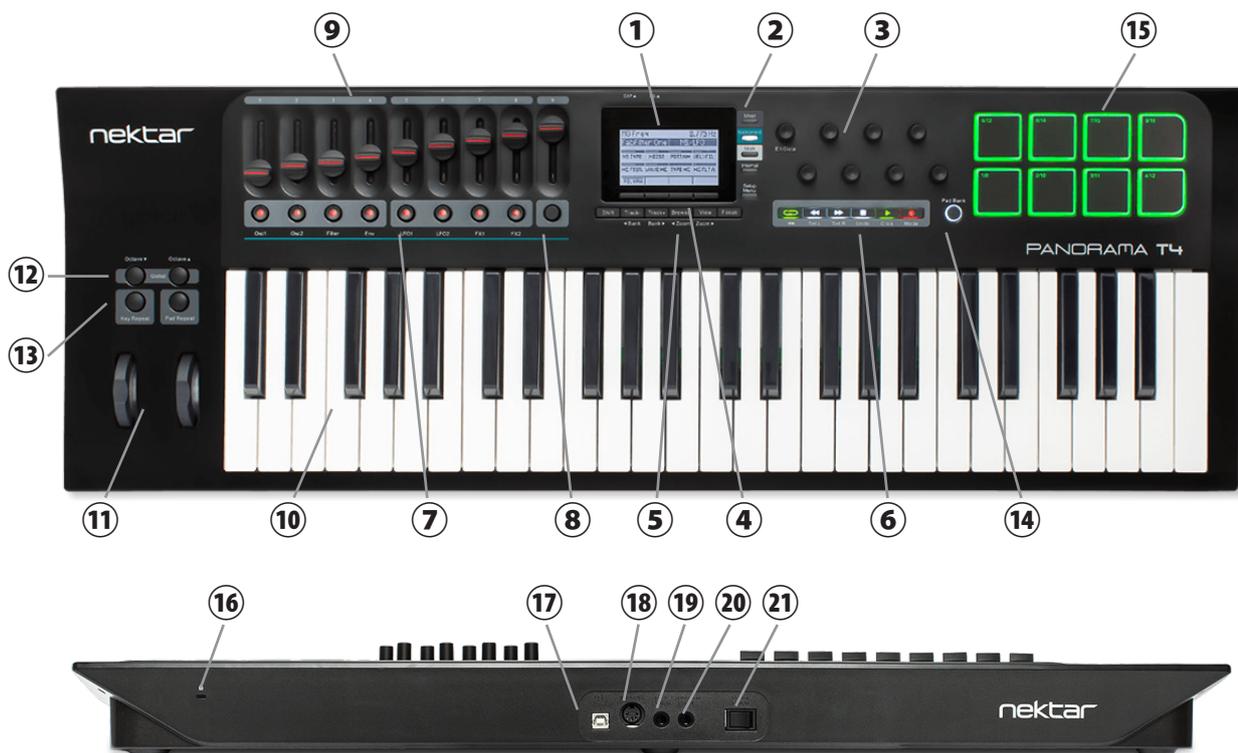
*システム条件内であってもすべての環境での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境についてはサポート対象外となります。

*DAWインテグレーションは、ご利用のDAWソフトウェアのシステム条件も合わせてご確認ください。

PANORAMAの概要 - T4/T6

Panorama T4/T6モデルの各部呼称とその概要です。



トップパネル

- ① **ディスプレイ**: 設定やコントローラーに関する情報、DAWインテグレーション時はソフトウェアと連動した情報を表示します。
- ② **モード切り替えボタン**: Panoramaの操作モード: Mixer (ミキサー)、Instrument (インストルメント)、Transport (トランスポート)、Internal (インターナル) の切り替えに使用します。それぞれのボタンをもう一度押すことで、画面表示そのモードのホームとバックの切り替えが行えます。DAWインテグレーションが機能しない場合、Internalモードのみが有効になり、他のモードボタンは機能しません。
- ③ **エンコーダー**: 2段に並んだ8つのエンコーダーは、主にDAW上のプラグイン操作に使用します。上段左端のエンコーダー: E1/Dataは、ディスプレイと連動したパラメーター、ナビゲーション操作としても機能します。
- ④ **ディスプレイメニューボタン**: ディスプレイ下端の表示と連動した機能、メニューにアクセスする際に使用します。
- ⑤ **ナビゲーションボタン**: 6つのボタン: Shift (シフト)、Track/Bank (トラック/バンク)、Patch/Zoom (パッチ/ズーム)、View (ビュー) は、トラックやソフトウェアの音色選択等、主にDAWインテグレーション時のソフトウェア操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑥ **トランスポートボタン**: 6つのボタンはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート: 再生、停止、録音などの操作に使用します。DAWインテグレーションを使用しない時はMMCコマンドによるトランスポート操作が行えます。
- ⑦ **LEDボタン**: 8つのボタンは主にその上のフェーダーと連動し、DAWのミキサーチャンネルの操作に使用します。
- ⑧ **フェーダーボタン**: インターナルモードではコントローラーのMIDI出力のミュートが行えます。他のモード、DAWインテグレーション時には左横にあるLEDボタンの機能切り替えや特別な機能にアクセスします。
- ⑨ **フェーダー**: 9本の30mmフェーダーは主にDAWのミキサーチャンネル操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑩ **鍵盤**: ペロシティ、モノアフタータッチ対応のキーボードです。T4 = 49鍵、T6 = 61鍵
- ⑪ **ピッチベンドとモジュレーションホイール**: 左側はピッチベンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑫ **Octave (オクターブシフト) ボタン**: 鍵盤の音域範囲のオクターブ変更と演奏時の操作に使用します。2つのオクターブボタン (▼と▲) の同時押しでグローバル (Global) メニューにアクセスします。
- ⑬ **Key Repeat (キーリピート) と Pad Repeat (パッドリピート) ボタン**: 鍵盤およびドラムパッドのノートリピート機能のオン/オフに使用します。
- ⑭ **Pad Banks (パッドバンク) ボタン**: パッドバンクの切り替えに使用します。
- ⑮ **ドラムパッド**: ペロシティ、圧感式のドラムパッドで、ドラム音源の演奏以外に、MIDIボタン/スイッチとしても機能します。(MIDI設定の変更可能)

リアパネル

- ⑯ **Kensington (ケンジントン) ロック**: 市販のKensingtonロックに対応したポートです。盗難防止に使用します。
- ⑰ **USB端子**: コンピューターとの接続用の標準サイズのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送と、コンピューターからの電源供給を受けます。
- ⑱ **MIDI OUT (出力) 端子**: 標準のDIN-5規格のMIDI出力端子です。外部のデバイスにMIDI情報を送信するために使用します。
- ⑲ **Foot Switch (フットスイッチ) 端子**: 別売のフットスイッチを接続する標準サイズ (1/4") の端子です。Panoramaの電源投入時に極性を自動検知します。通常はサスティペダルのMIDI情報を扱います。(MIDI設定の変更可能)
- ⑳ **Expression Pedal (エクスプレッションペダル) 端子**: 別売のエクスプレッションペダルを接続する標準サイズ (1/4") の端子です。
- ㉑ **Power On/Off (電源) スイッチ**: Panorama本体の電源をオン/オフします。

さあ、始めましょう

接続と電源

PanoramaはUSBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器ですが、全ての機能を利用するために、環境によっては特別に用意されたドライバーソフトウェアのインストールが必要です(ただし、いくつかのシステム環境下においてはOS標準のドライバーで動作するため、コンピューターに接続するだけで使用することができます)。

Panoramaの動作に必要な電源はコンピューターのUSBポートから供給されます。

接続方法はとても簡単です:

- システム環境に応じたドライバーソフトウェアをインストールします。
- サスティンペダルを使用する場合は、Panoramaのフットスイッチ端子⑩に接続しておきます。
- エクスプレッションペダルを使用する場合は、Panoramaのエクスペッションペダル端子⑫に接続しておきます。
- 付属のUSBケーブルを使用して、Panorama TのUSBポート⑬とコンピューターを接続します。
- 電源スイッチ⑭をオンにします。

重要なお知らせ:初めてPanorama Tを使用する際は、ファームウェアアップデートが必要です(後述)。

Nektar DAWインテグレーション

ご利用のDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意していますので、ダウンロードの上インストールをします。このことで、シンプルな設定で高度なDAWコントロールを実現します。

手順は以下の通りです:

まず、Nektarユーザーアカウントを作成します。

www.nektartech.com/registration

次に指示に沿って製品の登録を行い、最後に「My Download」タブをクリックしてファイルにアクセスします。

重要なお知らせ:設定に関する情報はウェブ上でPDFファイルとして公開されています。

ファームウェア(Firmware)アップデート

Panorama Tを使用するにあたり、最初に本体のファームウェアアップデートを行う必要があります。ファームウェアは、ハードウェアドライバーやNektar DAWインテグレーションファイルのインストールフォルダ内に含まれています。ドライバーやソフトウェアのインストール後、以下の手順に従ってファームウェア(Panorama Tのシステムファイル)の更新を行います。

ファームウェアアップデートは、本体のシステム更新になります。実行の際は細心の注意を払った上で作業して下さい。以下、その手順となります:

1. Panorama Tの電源を切った状態でコンピューターと接続し、フェーダーボタン⑧とShiftボタン⑤を押しながら、電源を入れます。
2. Panoramaのディスプレイが真っ白で何も表示されていない状態を確認したら、Firmwareフォルダ内の"Nektar update.app"(または"nkupdate")を起動します。

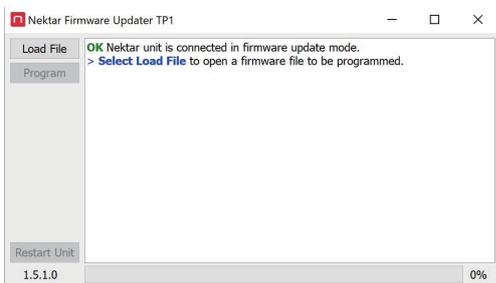
*いくつかのシステム環境においてファームウェアは以下の場所にインストールされます。

Windows環境: C:\Program Files\Nektar\Px\fw

macOS環境: Macintosh HD(起動ディスク) > ライブラリ > Application Support > Nektar > fw

注意:これらのファームウェアが最新ではない場合があります。最新ファームウェアに関する情報はメーカーサイトにてご確認下さい。

3. nkupdateアプリケーションを起動します。起動すると、下のような画像が表示されます。(システム環境によって表示は多少異なります。)



4. 接続を確認したら、アップデートソフトウェアの"Load"ボタンを押して、ファームウェアファイルを開きます。ファームウェアファイルは、Pnoramaのモデルごとに用意されています。T4の場合、"Panorama_T4_FW... .bin"を探します。
Loadボタンを押せない場合は、全てのソフトウェアを終了し、上記の手順1から再度接続を試みて下さい。
5. ファームウェアファイルが読み込まれると"Program"が有効になりますので、クリックしてファームウェアの更新を実行します。
6. しばらくして、ソフトウェア上のメッセージ欄に"Programming success"と表示されたら、アップデートソフトウェアを終了して、Panorama本体の電源を切ります。
7. Panorama Tの電源を投入して、正常に起動すれば、ファームウェアの更新は完了したことになります。

さあ、始めましょう

Panoramaの設定を工場出荷時に戻す場合は、Panoramaの電源を切った状態で上記のファクトリーリセットの手順に従います。工場出荷状態への初期化を完了したら、一度コンピューターを再起動します。

注意:この操作で全てのユーザーメモリと設定が消去されます。必要に応じ、バックアップを取って下さい(方法は11ページをご覧ください)。

DAW インテグレーションのインストールと設定

お使いのDAWに合わせてDAWインテグレーションファイルをダウンロードし、インストールします。

お使いのDAW用のインテグレーションファイルがない場合、MCU (Mackie Control Universal) に対応しているDAWであれば、Nektar MCUインテグレーションをお使い下さい。

ダウンロードしたファイルのインストール手順は以下の通りです:

1. Panorama Tのファームウェアが最新版に更新されていることをご確認ください。
2. インストールファイル: Panorama_T4_T6_(DAW名)_supportを見つけて、ダブルクリックで実行します。
3. 画面に従ってインストールを完了します。
4. Panorama T4/T6がコンピューターに接続され、電源がオンになっていることを確認します。
5. DAWを起動し、コントロールサーフェイス(コントローラー)とMIDI入出力の設定を行います。
6. 設定を完了したら、画面を閉じ、Panorama Tを操作します。

これで基本的な設定は完了ですが、これとは別にソフトウェア音源を操作するためのプラグインソフトウェア:Nektarineのインストールが必要です。操作や設定の詳細はNektarineの項目をご覧ください。

インターナルモード - 概要

Panorama Tには4つのモードが用意され、DAWソフトウェアのミキサーやプラグイン等の操作に合わせ、切り替えて使用します。モードの切り替えはディスプレイ①横の切り替えボタン②を使用します。Mixer、InstrumentモードはDAWインテグレーション対応のソフトウェアと連動する際のみ使用できます。MultiモードはNektarine用として、またInternalモードはDAWインテグレーションやNektarineに割り当て可能なコントローラーとして使用します。

DAWインテグレーションに関する設定は、13ページ以降に記載しています。ここではInternalモードについて解説します。

フェーダー⑨やエンコーダー③等を動かすと、画面表示も連動します。これらのコントローラーは一般的なMIDIコントローラー情報(コンティニューアスコントローラーやコントロールチェンジと言い、通常、MIDI CCと表記)を送信します。

ディスプレイ下のボタン④は画面下端のタブメニューと連動し、そこに表示されたメニューや機能にアクセスする際に使用します。

注意:画面表示はPanorama Tのファームウェアバージョンやモデルによって異なる場合があります。

キーボード⑩の左横にはOctaveボタン⑫、Repeatボタン⑬、ピッチベンドとモジュレーションホイール⑪が用意されています。

- 左側のOctave ▼ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ下げます。
- 右側のOctave ▲ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ上げます。
- ボタン操作を繰り返すことで、そのボタン機能に応じて音域をさらに上下させることができます。

オクターブボタン操作による範囲はPanorama Tのモデルによって異なります。49鍵モデル(T4)では、最大で3オクターブ下、4オクターブ上にシフトできます。61鍵モデル(T6)は、上下3オクターブの範囲でシフトすることが可能です。いずれのモデルもMIDI規格のノートの範囲(127ノート)を全て網羅します。オクターブの変更は2つのOctaveボタンを同時に押し、Globalメニュー上でも設定可能です。その際の設定にはDataエンコーダー③のE1を使用します。同様に、キーボードのトランスポーズ(Transpose)もGlobalメニュー内で行えます。

メモ:PanoramaのInternalモードでは、コントローラーの割り当て設定を「プリセット」として、最大10個まで保存可能です。工場出荷時、本体内に10のプリセットが用意されています。プリセットの設定は、お好みに応じて変更/保存が可能です。また、プリセットとは別に、パッドに関する様々な設定を行うことが可能です。本製品では、これをパッドマップ(Map)と呼びます。

インターナルモードのコントロールと割り当て方法

インターナルモードに入るには、Internalボタン②を押し、モードが選択されていることを確認します(これは電源投入時のデフォルトモードです)。インターナルモードでは、コントロールをMIDIメッセージに割り当てることができ、「プリセット」と「パッドマップ」を設定、保存、ロードすることができます。また、プリセットとパッドマップの他に保存された「パフォーマンスコントロール」もあります。

パフォーマンスコントロール

パフォーマンスコントロールは、リアルタイム演奏や操作、およびトランスポートに使用されます。これらの設定は電源を落としても保持されます。ただし、パフォーマンスコントロールはプリセット、またはパッドマップには含まれません。

パフォーマンスコントロールは以下を含みます:

- ピッチベンドとモジュレーションホイール
- アフタータッチ
- フットスイッチ入力
- エクスプレッションペダル入力
- ナビゲーションボタン⑤:Track-, Track+, Browse, View
- Shift + ナビゲーションボタンのいずれかを押しアクセス可能な4個のナビゲーションボタン割り当て
- トランスポートボタン⑥

全体で19のグローバルコントロール設定が本体に保持されます。



プリセットまたはパッドマップを読み込んだり調整を加えても、パフォーマンスコントロールは変更されません。

プリセット

Panorama T4/T6にはユーザーが設定したMIDIコントロールに関する情報をプリセットとして最大で10個、保存することが可能です。プリセットには以下のコントローラー設定が含まれます。

- フェーダー⑨
- LEDボタン⑦
- エンコーダー③

インターナルモード - 概要

プリセットを適用するには2つの方法があります：

- Setupボタンを押し、E1 / Dataノブ③を使用し、Loadを選択します。次にメニューボタンのEnter④を押し、E1 / データノブ③を使用して目的のプリセットを選択します。そして再度、Enterボタン④を押し、プリセットを読み込みます。
- Internal等のモードボタン②を押し、E1 / Dataノブ③を使用してプリセットを選択します。そして押しただままにしているモードボタンを離すとプリセットが読み込まれます。

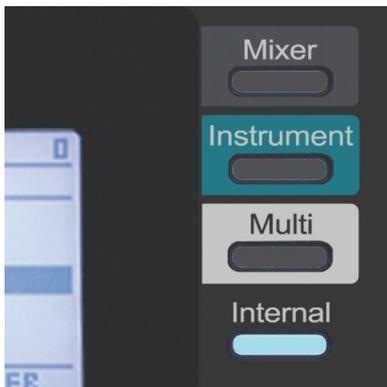
モードボタン②の詳細に関しては、15ページをご覧ください。

下表はプリセットのデフォルト設定になります：

プリセット	概要	MIDIチャンネル	LEDボタン	エンコーダーのMIDI CC設定
1	Learn Friendly 1	グローバル設定	トグル値:0と127	絶対値
2	Learn Friendly 2	グローバル設定	トグル値:0と127	相対値
3	GM Instrument preset	グローバル設定	SENDプログラムメッセージ:0-7	絶対値
4	GM Mixer ch 1-8	1-8	トグルボリューム値:0と100	絶対値
5	GM Mixer ch 9-16	9-16	トグルボリューム値:0と100	絶対値
6	Learn Friendly 3	14	トグル値:0と127	絶対値
7	Learn Friendly 4	14	トグル値:0と127	絶対値
8	Learn Friendly 5	15	トグル値:0と127	絶対値
9	Learn Friendly 6	15	トグル値:0と127	絶対値
10	Learn Friendly 7	16	トグル値:0と127	絶対値

*プリセット1、2および3は、グローバルMIDIチャンネルで送信するように設定されています。グローバル設定ページでグローバルMIDIチャンネルを変更すると、これらのプリセットが送信するMIDIチャンネルも変更されます。グローバルMIDIチャンネルの変更方法は、10ページをご覧ください。

モードボタン②



4つのモードボタンは、ディスプレイの右側に配置されています。

Panorama T4/T6を最初に起動すると、Internalモードのプリセット1が適用されます。

デフォルト状態では、4つのモードボタンはそれぞれ以下のプリセットにアクセスします：

- Mixerボタン：プリセット4 (GM Mixer ch1-8)
- Instrumentボタン：プリセット3 (GM音源)
- Multiボタン：プリセット2 (Learn Friendly 2)
- Internalボタン：プリセット1 (Learn friendly)

Mixer、Instrument、Multi、Internalのそれぞれのプリセット割り当てを変更するには、対象のボタンを押し、E1/Dataノブ③で割り当てるプリセットを選択します。ボタンを離れた直後にプリセットの設定が適用されます。

Panorama T4/T6をNektar DAWインテグレーションまたはNektarineと併用した場合、モードボタンはそれぞれのDAWインテグレーションで定義された設定に従って動作します。

Nektar DAWインテグレーション / Nektarineが有効になっている場合、モードボタンはプリセットの呼び出しに使用することはできません。

Nektar DAWインテグレーションとNektarineの詳細については、12～13ページをご覧ください。

インターナルモード - グローバル(Global) 設定

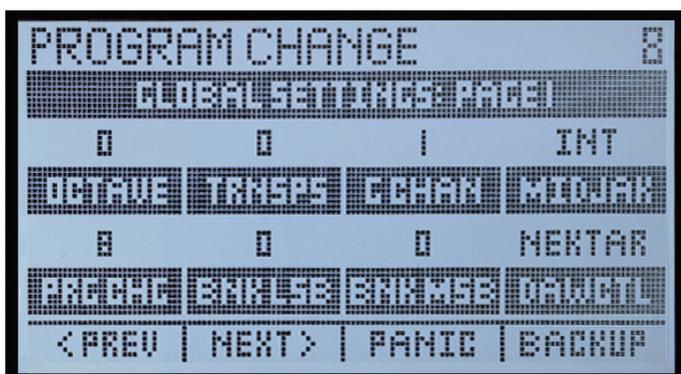
ここでは一般的によく使われる設定について解説します。特にMIDIに慣れ親しんだ方にとって有用な情報になります。

グローバル設定メニューは、ワークフローや演奏スタイルに合わせてPanorama T4/T6を設定するために使用します。以下のいずれかの操作でメニューにアクセスします:

- 2つのOctaveボタン⑩を同時に押すことでGlobalメニューにアクセスします。
- Setup Menuボタン⑤を押し、E1/Data③を使用してリストから“Global”を選択します。Enterボタン⑤を押すとGlobalメニューにアクセスします。

グローバルメニューでは、8つのエンコーダー③を使用して、各ページにリストされている機能を調整できます。ページの切り替えにはPrevとNextボタン④を使用します。

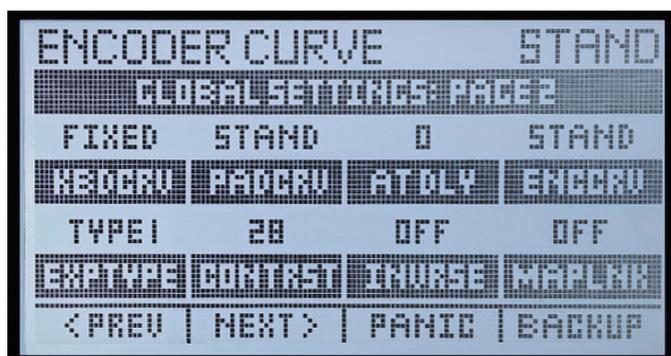
ページ1 - オクターブ、トランスポーズ、グローバルMIDIチャンネル、MIDIアウトとプログラム/バンク DAWコントロール



以下、各エンコーダーと設定に関する一覧です:

コントロール	機能	設定値	概要
E1	Octave	T4 = -3/+4, T6 = -3/+3	現在のオクターブ設定を変更します。
E2	Transpose	-/+ 12 semitones	選択された半音移動はキーボードのみに効果があります。
E3	Global Channel	MIDI Channel 1-16	キーボードが送信するMIDIノートオンのチャンネルを設定します。パッドは特定のMIDIチャンネルに割り当てられていない限り、グローバルMIDIチャンネルにも送信されます。
E4	MIDI Output	Internal, USB	MIDIデータをT4/T6からMIDIアウトに直接送るにはInternalを選択します。MIDIアウトをUSB MIDIインターフェースとして使用するにはUSBを選択します。
E5	Program	0-127	MIDIメッセージのプログラムチェンジを送信します。
E6	B LSB	0-127	MIDIメッセージのバンクセレクトLSBを送信します。
E7	B MSB	0-127	MIDIメッセージのバンクセレクトMSBを送信します。
E8	DAW Control	Nektar, MCU, PTools	Nektar DAWインテグレーションが用意されていないDAWを使用する際、ここでDAWのコントロールモードを設定します。

ページ2 - キーボード、パッドとエンコーダーカーブ、ディスプレイとマップリンク、バックアップ

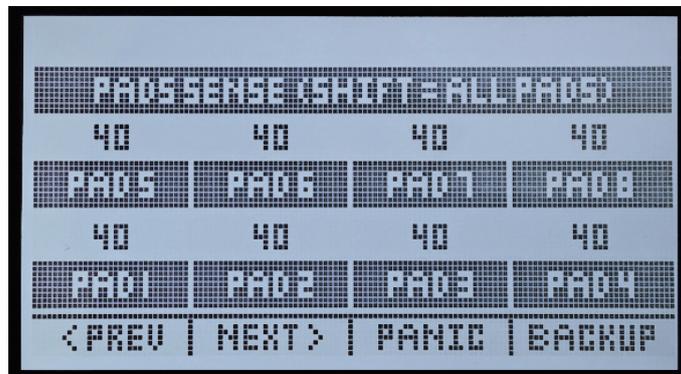


インターナルモード - グローバル(Global) 設定

以下、各エンコーダーと設定に関する一覧です:

コントロール	機能	設定値	概要
E1	Keyboard Velocity Curve	Soft 2, Soft 1, Standard, Hard 1, Hard 2, Fixed	Soft1と2のカーブでは、緩やかなベロシティ値の変化をもたらします。Standardがデフォルトで、Hard1と2では高いベロシティ値にすぐに達することができます。Fixedを選択するとデフォルトのベロシティ値は127になりますが、フェーダーやエンコーダー等のコントロールをプログラムすることで、インターナルモードで値を動的に設定できます。
E2	Pad Curve	Linear, Soft, Standard, Hard, Fixed	Linearはベロシティに比例した変化、Softは緩やかな変化カーブ、Standardはデフォルト設定、Hardは高いベロシティ値にすぐに達することができます。Fixedを選択すると、デフォルトのベロシティ値は127になりますが、フェーダーやエンコーダー等のコントロールをプログラムすることで、インターナルモードで値を動的に設定できます。
E3	Aftertouch Delay	0-255	アフタータッチが反応するまでの時間を調整します。
E4	Encoder Curve	Linear Step, Slow, Standard, Fast	エンコーダーの感度を調整します。
E5	Expression Pedal	TYPE 1, TYPE2	接続するエクスプレッションペダルに合わせ設定します。(デフォルト設定=Type 1)
E6	Contrast	20 - 40	ディスプレイのコントラストを設定します。(デフォルト設定 = 30)
E7	Inverse	On/Off	ディスプレイ表示色を逆転させます。inverseをアクティブにすると、白いピクセルが暗くなり、暗いピクセルが白くなります。(デフォルト設定 = Off)
E8	MapLink	On/Off	パッドマッピングとプリセットマッピングの読み込みをリンクさせるかどうかを設定します。オンにすると、パッドマップ1~8は、プリセット1~8の読み込みと連動します。プリセット9と10では、パッドマップ1と2がリンクされて読み込まれます。

ページ3 - パッド設定



パッド設定のページでは、8個のエンコーダーを使用して、8個のパッドそれぞれに独立してトリガースレッシュホールドを調整できます(デフォルト値=40)。[Shift]を押しながらエンコーダーを回すと、全てのパッドの設定が同時に変更されます。設定値が小さいほど、パッドはトリガーしやすくなります。設定値が低すぎると、クロストークや誤ったパッドのトリガーが発生する可能性がありますので、試奏しながら調整を行って下さい。パッドのLEDが連続的に赤色に点灯している場合、または他のパッドが再生された時にトリガーされる場合、望ましくない動作が停止するまで各パッドのスレッシュホールドを上げて下さい。

パニック (PANIC)

このボタンを押すとオールノートオフメッセージが送信され、全てのMIDIチャンネルにおいてコントロールMIDIメッセージがリセットされます。

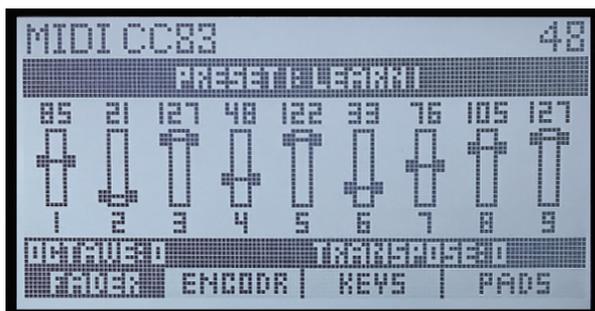
バックアップ (BACKUP)

この機能は、MIDI sysexデータを送信し、現在のコントローラーの割り当て設定、10のユーザープリセット、8つのパッドマップをAWやsysexデータを記録できる他のアプリケーションにバックアップするためのものです。

最初に、DAWまたはMIDI sysexを扱うソフトウェアで記録(MIDIレコーディング)を開始します。次に、Backupボタン④を押して、データ送信を開始します。

バックアップの復元: ユニットの電源が入っている間は、メモリダンプ/バックアップMIDI sysexファイルをいつでもPanorama T4/T6に送信できます。Panorama T4/T6がバックアップデータを含むMIDIトラックの出力先であることを確認して下さい。データ転送が完了すると、バックアップが復元されます。

インターナルモードディスプレイボタンメニュー④



ディスプレイ直下にある4つの表示ボタンの機能は、呼び出されているメニューに応じて変化し、各ボタン上部の表示ラベルはその機能を示します。

フェーダー (FADER)

Panorama T4/T6の電源を入れると、デフォルトでフェーダーページが表示されます。ディスプレイには現在のフェーダーの位置とOctaveとTransposeの状態が表示されます。オクターブ設定を変更するには、オクターブボタン⑩を使用します。

エンコーダー (ENCODR)

エンコーダーの表示ボタンを押すと、8つのエンコーダーの現在値のグラフィック表示とそれぞれに現在割り当てられているMIDIメッセージが表示されます。Panorama T4/T6のフェーダーやノブ、ボタンのMIDI情報設定を変更するには、16ページの説明に従ってControl Editメニューを使用します。

キーボード (KEYS)

以下のキーボード⑩に関するメニューにアクセスします。

コード (CHORD) :

コード機能にアクセスします。この機能は、1つの鍵盤で最大6音までのノート (和音) をトリガーします。

- コードのボイスを指定するにはChordボタンを押したままにします。
- Chordボタンを押したまま、キーボードのコードのルートノートを最初に押さえます。
- 次にルートノートを押さえたまま、Chordボタンを離します。
- コードに含める他のノートを演奏します。必ず、コードに含まれる内の1つの音符 (必ずしもルートである必要はありません) を押し続けながら、追加の音符を1つずつ重ねていきます。
- コードのノート設定を終了したら全てのノートを離します。
- キーボード演奏で、設定したコード/音程を確認します。

この機能では1つのキーの打鍵のみで複雑なコード/インターバルを演奏できますが、音符が重複しないよう注意しましょう。

コード機能を解除するにはメニューボタンのChordを再度押します。

リピート (REPEAT) :

鍵盤演奏のリピート機能にアクセスします。詳細は15ページをご覧ください。

ベロシティフィックス (VELFIX) :

固定したベロシティ値で鍵盤演奏をする際に使用します。

- ベロシティ値の設定は、メニューボタンのVel Fixを押したままにします。
- E1 / Dataノブ③の操作で、ベロシティ値:0~127を設定します。この設定値が、ベロシティフィックス機能をオンにした際のベロシティ値になります。
- E1 / Dataノブ③を値127以上に動かすと、MWに設定され、モジュレーションホイールを使用したベロシティ値のリアルタイム操作モードになります。
- 設定を完了したらメニューボタンのVel Fixを離します。

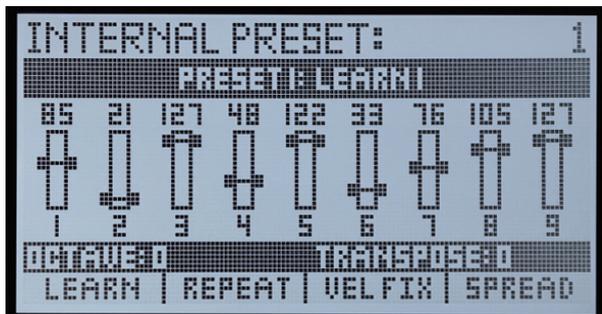
固定ベロシティモードは、オルガンなどのベロシティによる変化のない音色の演奏に適しています。モジュレーションホイール (MW) モードは、打鍵ではない要素でベロシティによる音量と音色変化をコントロールする際に有用です。

ホールド (HOLD) :

- この機能は、離鍵をしてもノートオンを保持し、発音を続けさせたい場合に使用します。
- キーボードのノートを1つまたは複数押さえます。
- メニューボタンのHoldを押します。
- 押さえている鍵盤を離します。
- 再度、Holdボタンを押して機能を解除するまで、ノートは発音し続けます。

パッド (PADS)

以下のパッド⑩に関するメニューにアクセスします。



ラーン (LEARN) :

学習機能を用いたパッドのノート設定です。

手順は以下の通りです：

- ・ メニューボタンのLearnを押して、学習モードをオンにします。
- ・ 設定対象のパッドを叩きます。
- ・ パッドに割り当てるノートをキーボード⑩を押さえて設定します。適切なノートが設定できるまでキーボードを押さえ、設定を続けることが可能です。また、複数のノートを押さえ、最大で6音までの和音を設定することも可能です。
- ・ 他のパッドを設定する場合、対象となる別のパッドを叩いて、キーボードでノート設定を行います。この操作で全てのパッドを設定できます。
- ・ 設定を終了するには、メニューボタンのLearnを再度押して、学習モードを解除します。

パッドの割り当て設定は電源の再投入時に保存されますが、将来的に失われないようにするにはパッドマップとして保存して下さい(14ページ参照)。

リピート (REPEAT) :

パッド演奏のリピート機能にアクセスします。詳細は15ページをご覧ください。

ベロシティフィックス (VELFIX) :

固定したベロシティ値でパッド演奏をする際に使用します。

- ・ ベロシティ値の設定は、メニューボタンのVel Fixを押したままにします。
- ・ E1 / Dataノブ③の操作で、ベロシティ値:0~127を設定します。この設定値が、ベロシティフィックス機能をオンにした際のベロシティ値になります。
- ・ E1 / Dataノブ③を値127以上に動かすと、MWに設定され、モジュレーションホイールを使用したベロシティ値のリアルタイム操作モードになります。
- ・ 設定を完了したらメニューボタンのVel Fixを離します。

固定ベロシティモードは、ビンテージドラム音源等、ベロシティによる変化のない音色の演奏に適しています。

モジュレーションホイール (MW) モードは、MPCスタイルのベロシティによる音量と音色変化をコントロールする際に有用です。

スプレッド (SPREAD) :

ベロシティスプレッドは、最後に演奏したパッドのノートを8つのパッドすべてに割り当て、それらに対して階段状に大きくなるベロシティ値を割り当てます。いわゆる、MPCスタイルの演奏機能の1つです。

- ・ ベロシティスプレッド機能対象のパッドを叩きます。
- ・ メニューボタンのSpreadを押して機能を有効にします。
- ・ 8つのパッドを演奏すると、各パッドは同じノート、徐々に高い固定ベロシティ値で演奏可能になります。
- ・ 機能を解除するには、メニューボタンのSpreadを再度押します。

パッドごとの固定ベロシティ値を設定することもできます。手順は次の通りです。

- ・ メニューボタンのSpreadを押します。
- ・ 調節対象のパッドを叩いて選択をします。
- ・ Spreadボタンを押し続けます。
- ・ E1/Dataノブ③を操作して、ベロシティ値を設定します。設定値は画面一番上の情報欄に表示されます。
- ・ 設定を終了したら、メニューボタンのSpreadを離します。
- ・ この操作を繰り返し、全てのパッドの設定が可能です。

8つのパッドはベロシティ対応で、ノート、MIDIスイッチ、またはプレッシャーコントロールメッセージのいずれかを割り当てられます。つまり、この8つのパッドは、ドラムビートやパーカッシブなメロディパートを演奏するだけでなく、通常のMIDIボタン(スイッチ)としても使用できます。詳細は16~17ページをご覧ください。また、パッドは4つのベロシティカーブと1つの固定ベロシティのいずれかを選択することができます。

パッドバンクボタン⑭

Pads Bankボタンは、パッドバンク1～8とパッドバンク9～16を切り替えます。これにより、限られたスペースでも4x4、合計16のノートをパッド演奏できるようになっています。ボタンが白く点灯している際にはパッドバンク:1～8が有効で、赤色に点灯している際はパッドバンク:9-16がアクティブとなります。

パッドラーン (LEARN):

パッドのノート設定は以下の手順で変更できます。

- Shift⑤ + Pads Bank⑭ボタンを押して、パッドの学習機能にアクセスします。
- 設定対象のパッドを叩きます。Pads Bankボタンで、バンク:1～8と9～16を切り替えることができます。
- パッドに割り当てるノートを、キーボード⑩で設定をします。適切なノートが設定できるまでキーボードを押さえ、設定を続けることが可能です。また、複数のノートを押さえ、最大で6音までの和音を設定することも可能です。
- 他のパッドを設定する場合、対象となる別のパッドを叩いて、キーボードでノート設定を行います。この操作で全てのパッドを設定できます。
- 設定モードを解除するには、Shift⑤ + Pads Bank⑭ボタンを再度押します。

全パッドのオクターブ変更:

以下の方法で、全パッドのオクターブ範囲が変更できます:

- Pads Bankボタン⑭を押したままにします。
- 2つのOctaveボタン⑫のいずれかを操作し、オクターブを変更します。この設定は、ディスプレイのパラメーター欄に表示され、パッドのオクターブシフト値を確認できます。
- 設定を終了したらPads Bankボタン⑭を離します。

パッドマッピングの適用:

Panorama T4/T6は、パッドの設定を最大で8セット、本体に保存することが可能です。この設定セットをパッドマップと呼びます。パッドマップの切り替え方法は以下の通りです:

- Shiftボタン⑤を押したままにします。
- 8つのパッド⑮は、それぞれのパッドマッピングのリコールボタンとして機能しますので、適用するマッピング1-8に応じたパッドを叩きます。選択したパッドマッピング番号がディスプレイに表示されます。
- 選択を完了したら、Shiftボタン⑤を離して、選択したパッドマッピングを適用します。

パッドマッピングには、8つのパッド x 2つのバンク、合計16パッド分の設定が含まれます。

デフォルトのパッドマップではパッドをプログラミングするためのいくつかのオプションがいくつか示されていますが、もっと多くのクリエイティブな方法があります。例えばプレッシャーを使用しパラメータを制御したり、プリセットのロードに使ってみたりするのも便利でしょう。

デフォルトのパッドマップのリストは次の通りです:

パッドマッピング	概要
1	クロマチックスケール C1~D#2
2	クロマチックスケール E2~G3
3	General MIDIドラムキットセットアップ
4	General MIDIパーカッションキットセットアップ
5	完全4度 1:2つのパッド演奏でコードを形成
6	完全4度 2:2つのパッド演奏でコードを形成
7	1パッド = 4オクターブ
8	コード

リピート

Panorama T4/T6はノートリピート機能を装備しています。

メモ:この機能はMIDIアウト端子からは出力されません。USB経由でのみ機能します。

- キーボードのリピート機能のオン/オフは、ホイール上のKey Repeatボタン⑬で行います。
- パッドのリピート機能のオン/オフは、ホイール上のPad Repeatボタン⑬で行います。

2つのボタンはそれぞれ、“Moment (モーメント)”または“Latch (ラッチ)”の操作モードに設定することができます。デフォルトでは“Moment”に設定されています。

モード設定は、ディスプレイのリピート設定ページで変更できます。

リピート設定ページにアクセスするには、Internalボタン②でインターナルモードに切り替えます。そして画面のメニューボタン:KeysまたはPadsを押し、メニューボタンのRepeatを押します。

キー/パッドリピート

鍵盤/パッドのリピートメニューをオンにした際、エンコーダーは以下のリピートパラメーターを操作可能となります:

E1	E2	E3	E4
Tempo (テンポ)	Gate/Length (ゲート/レングス)	Accent Velocity (アクセント ベロシティ)	Setup (セットアップ)
E5	E6	E7	E8
Repeat Rate (リピートレート)	Swing (スウィング)	Accent Interval (アクセント インターバル)	Setup Select (セットアップ セレクト)

Tempo: クロックソースがInternalに設定されている場合のテンポ設定を行います。設定範囲は、30~240 BPMの間になります。クロックソースがMIDI Clockに設定されている場合、外部のMIDIクロックに同期したテンポが表示されます。この場合、エンコーダー操作は無効になります。

Repeat Rate: ノート演奏の繰り返し頻度(速さ)を設定します。設定値は音符単位で、1/4、1/6、1/8、1/12、1/16、1/24、1/32、1/48、1/64、1/80、1/96から選択することが可能です。

Gate: 繰り返し演奏時の音符の長さを設定します。設定範囲は1%~100%です。100%=リピートレート値となります。

Swing: スウィングの度合いを設定します。デフォルト値の0%はオフの状態です。0%未満の値に設定した場合、2番目の音符は1つ前の音符に近づき、0%以上に設定した場合は先行する音符との間隔が離れます。オフにする際は、通常値の0%に戻します。

Accent Velocity: ベロシティのアクセント値のオフセットを±50の範囲で設定します。これはアクセント値が鍵盤をおさえた際のノートベロシティよりも大きい、あるいは小さいベロシティ値でリピート演奏をされることを意味します。

Accent Interval: アクセント演奏するノート間隔を設定します。設定範囲は2~16で、2に設定すると2番目のノート、9に設定した場合は9番目のノートがアクセントオフセット値の設定に従ったベロシティで演奏されます。

SetupとSetup Select: Setupで設定項目の選択し、Setup Selectでその値を設定します。(下表参照)

セットアップ	セットアップセレクト	概要
Vel Src	AfterTouch/Pad Pressure, Exp Pedal, Mod Wheel, off	選択されたソースは、リピート中のベロシティをコントロールします。
Button	Moment, Latch	Key RepeatとPad Repeatボタンの動作モードを切り替えます。
Trig Sync	Key 1 Sync	ノートトリガーのタイミングを設定します。 トリガーポイントから演奏を開始します。リピート演奏は同期していますが、トリガータイミングはフリーです。
	Key 2 Sync	最初のノートトリガーと同期します。
	Beat Sync	トリガータイミングは、ビートレートステップに矯正されます。
Clock Src	Internal	クロックソースを設定します。 Panorama T4/T6の内部クロックをソースにします。
	MIDI Clock	USB MIDIポート1を介して受信したMIDIクロックをソースにします。
	Auto	外部と内部クロックの自動設定をします。外部MIDIクロックを受信した場合はそれに同期し、有効なクロック信号を検知できない場合は内部クロックに切り替えます。

コントロールエディット (Control Edit)

Panorama T4/T6のインターナルモードでフェーダーやノブ、ボタン等に割り当てるコントロール情報は好みでの設定が可能です。設定を行うには、まずInternalモードボタン②を押し、インターナルモードに切り替えます。次に、Setup Menuボタンを押し、設定画面に入ります。そしてメニューボタン④の上/下(▼/▲)の操作、あるいはE1 / Dataノブ③の操作で、Control Editを選択し、Enterボタンでコントロールエディットメニューアクセスします。

コントロールエディットメニューでは、直近で操作(で選択した)フェーダーやノブ、あるいはボタンが扱う設定情報をディスプレイに表示します。別の設定対象を選択するには、目的のコントロール(フェーダーやノブ、あるいはボタン)を操作します。例えばフェーダー3を動かしたり、パッド4を押すことで、そのコントロールに関する情報がディスプレイに表示され、設定可能になります。

コントローラーの種類	設定可能なコントロール情報(MSG TYPE)
Faders - フェーダー AfterTouch - アフタータッチ Pitch Bend Wheel - ピッチバンドホイール Mod Wheel - モジュレーションホイール Expression Pedal - エクスプレッションペダル	<ul style="list-style-type: none"> • MIDI CC - コントロールチェンジ • Pitch Bend - ピッチバンド • Channel Pressure/ (AT) - チャンネルアフタータッチ • NRPN coarse - NRPN • NRPN fine - NRPN • Fixed Velocity Value - 固定ベロシティ値
Assignable Buttons - ボタン Foot Switch Socket - フットスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> • MIDI CC - コントロールチェンジ • MIDI CC Toggle - コントロールチェンジ/トグルモード • MIDI CC Step - コントロールチェンジ/ステップモード • Pitch Bend - ピッチバンド • Note - MIDIノート • Note Toggle - MIDIノート/トグル • Program & Bank - プログラムとバンクチェンジ • Program Step - プログラムチェンジ/ステップモード • NRPN Toggle coarse - NRPN/トグルモード • NRPN Toggle fine - NRPN/トグルモード • NRPN Step coarse - NRPN/ステップモード • NRPN Step fine - NRPN/ステップモード • Load Preset - プリセット読み込み • Fixed Velocity State - 固定ベロシティ値 • MMC - MIDIマシンコントロール • Key Hold - キーホールドモード • Key Chord - キーコードモード
Encoders - エンコーダー	<ul style="list-style-type: none"> • MIDI CC - コントロールチェンジ • Pitch Bend - ピッチバンド • Channel Pressure/ (AT) - チャンネルアフタータッチ • NRPN coarse • NRPN fine • Fixed Velocity Value - 固定ベロシティ値 • Program - MIDIプログラムチェンジ • MIDI CC Relative - コントロールチェンジ/相対値
Pad Pressure - パッド感圧	<ul style="list-style-type: none"> • MIDI CC - コントロールチェンジ • Pitch Bend - ピッチバンド • Poly AfterTouch - ポリフォニックアフタータッチ • Channel AfterTouch - チャンネルアフタータッチ • Load Preset - プリセット読込 • Load Pad Map - パッドマッピング読み込み • NRPN Toggle coarse - NRPN/トグルモード • NRPN Toggle fine - NRPN/トグルモード • NRPN Step coarse - NRPN/ステップモード • NRPN Step fine - NRPN/ステップモード • Fixed Velocity Value - 固定ベロシティ値
Pad Strike - パッド	<ul style="list-style-type: none"> • Note - MIDIノート • Chord - コード/複数のMIDIノート



パッドストライク(パッドを叩いた際の情報)にはノートまたはコードをコントロール情報として割り当てることができます。いずれもの設定も、コントロールエディットではなく、パッドランまたはコード機能を使って行います。

設定値の最小と最大、および反転動作の設定

多くのコントロール情報では、最小値と最大値を設定できるため、パラメーター操作の範囲を定義することが可能です。

最小値が最大値より大きい場合、操作時の動作は逆になります。例えばフェーダーをオルガンのドローパーとして扱う場合、MIDI CCの最小値を127に、最大値を0に設定します。このことで、フェーダーの動作が逆になり、フェーダーを下げる値が増加し、上げていくと値が0に向かって小さくなります。

コントロール情報の設定

ここでは、コントロールエディットでの設定について解説します。コントロール情報の種類に関わらず、基本的に同じ手順で設定できます。設定を行うには、まずコントロールエディットメニューに入ります。

エンコーダー設定

ここではエンコーダーノブ③の1つが、MIDI CC Relative (相対値) / #74を扱うための設定手順を例にします：

- 8つあるエンコーダー③の内1つを操作し、選択します。
- ディスプレイの表示で、コントロール情報の種類 (MSG TYPE) が選択されている (反転表示している) ことを確認します。必要に応じて、下 (▼) または上 (▲) のメニューボタン④で設定対象となるよう選択します。
- メッセージタイプ (MSG TYPE) の項目が、“MIDI CC REL”になるように、E1 / Dataノブ③を操作します。
- メニューボタンの▼④を2回押して設定項目の“MIDI CC:”を選択し、コントロールチェンジ番号を設定します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、値を“74”に設定します。このMIDI CC # 74は、GM規格でフィルターカットオフとして定義されているコントロール情報になります。

これで、設定をしたエンコーダーノブを時計回りに動かすとインクリメント情報の“1”が送信され、反時計回りに動かすとデクリメント情報の“127”が送信されます。

LEDボタン設定

ここでは、LEDボタンでプログラムとバンクチェンジを扱うための設定手順を例にします：

- LEDボタン⑦の内1つを押し、選択します。
- ディスプレイの表示で、コントロール情報の種類 (MSG TYPE) が選択されている (反転表示している) ことを確認します。必要に応じて、下 (▼) または上 (▲) のメニューボタン④で設定対象となるよう選択します。
- メッセージタイプ (MSG TYPE) の項目が、“PRG BANK”になるように、E1 / Dataノブ③を操作します。
- メニューボタンの▼④を2回押して設定項目の“PROGRAM”を選択し、プログラムチェンジ番号を設定します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、値を“11”に設定します。これでプログラムチェンジ11を送信するように設定しました。
- そして、メニューボタンの▼④を1回押して設定項目の“BANK MSB”を選択します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、バンクを選択する情報を設定します。
- さらに、メニューボタンの▼④を1回押して設定項目の“BANK LSB”を選択します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、バンクを選択する情報を設定します。

これで、ボタンを押した際にバンクとプログラムチェンジが送信されます。プログラムチェンジは、0~127の間で最大128のプログラムのいずれかと呼び出します。MIDI規格ではバンクごとに128のプログラムチェンジが扱えます。

バンクチェンジの情報は、プログラムチェンジの前に送信され、バンクの選択を行います。バンクチェンジ情報の扱い方は、受信デバイスによって異なります。Bank MSBのみをバンクアクセスに使用する場合があります。その際、Bank LSBの値を空白のままにする場合があります。それ以外の場合は、Bank MSBとBank LSBの両方の設定が必要です。多くの場合、Bank MSBを0、Bank LSBでバンクナンバーを設定します。バンクチェンジに関する詳しくは情報は、受信デバイスのマニュアルをご覧ください。

パッドのアフタータッチ設定

ここでは、ドラムパッド⑮でチャンネルアフタータッチを扱うための設定手順を例にします：

- 8つあるドラムパッド⑮の内1つを叩いて、選択をします。
- ディスプレイの表示で、PRESSUREが選択されている (反転表示している) ことを確認します。必要に応じて、下 (▼) または上 (▲) のメニューボタン④で設定対象となるよう選択します。
- PRESSUREの項目が、“CAHN AT”になるよう、E1 / Dataノブ③を操作します。

これでパッドをおさえた際にチャンネルアフタータッチがトリガーされるようになりました。キーボードの代わりにパッドを使ってアフタータッチをコントロールしたり、パッドのコードやノート演奏と同時にアフタータッチを扱うことが可能になります。

コントロール情報の設定

トラックボタン設定

ここでは、トラックボタン⑤でPanoramaのプリセットにアクセスするための設定手順を例にします：

- トラックボタン⑤の"Track -"を押し、選択します。
- ディスプレイの表示で、コントロール情報の種類 (MSG TYPE) が選択されている (反転表示している) ことを確認します。必要に応じて、下 (▼) または上 (▲) のメニューボタン④で設定対象となるよう選択します。
- メッセージタイプ (MSG TYPE) の項目が、"LD PRESET"になるように、E1 / Dataノブ③を操作します。
- メニューボタンの▼④を1回押して設定項目の"PRESET"を選択し、プリセット番号を設定します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、値を目的のプリセット番号に設定します。

これでコントロールエディットを終了し、Track - ボタンを押すと、設定したプリセットが適用されます。Track - ボタンを含めたナビゲーションボタン⑤はプリセット変更の影響を受けないグローバルコントロール用のスイッチですので、これらのボタンはプリセットアクセスの設定に適しています。17ページの通り、LEDボタン⑦のいずれかにプリセット設定をした場合、読み込まれたプリセットの設定に依存して役割が変化しますので、ご注意ください。

フェーダー設定

ここではフェーダー⑨の1つをベロシティ操作にする設定手順を例にします：

- フェーダー⑨の1つを操作して、選択をします。
- ディスプレイの表示で、コントロール情報の種類 (MSG TYPE) が選択されている (反転表示している) ことを確認します。必要に応じて、下 (▼) または上 (▲) のメニューボタン④で設定対象となるよう選択します。
- メッセージタイプ (MSG TYPE) の項目が、"FIX VEL VAL"になるように、E1 / Dataノブ③を操作します。
- メニューボタンの▼④を2回押して設定項目の"TARGET"を選択し、ベロシティ操作の対象を設定します。
- E1 / Dataノブ③を操作して、"PADS"または"KEYS"に設定します。

設定した操作対象 (パッドまたはキーボード) のベロシティカーブを"Fixed"に設定することで、ここで設定したフェーダー操作でベロシティコントロールが可能になります。

プリセットの保存

設定を変更した場合、消失する可能性が常にあるため、プリセットは定期的に保存することをお勧めします。

プリセットには、9本のフェーダー⑨、8つのLEDボタン⑦、8つのエンコーダー③の設定が含まれます。保存手順は次の通りです：

- Internalボタン②を押して、インターナルモードに切り替えます。
- Setup/Menuボタンを押して、設定メニューに入ります。
- E1/Dataノブ③、または(▼)または上(▲)のメニューボタン④で“Save”を選択します。
- メニューボタンのEnter④を押して、保存メニューに入ります。
- パラメーター欄の上に“Save to preset:”が表示されたら、E1/Dataノブ③を使用して、保存先のプリセット(1~10)を選択します。
- 保存先を確認し、メニューのEnterボタン④を押して保存を実行します。

注意:この操作の実行で、選択したプリセットの設定が上書きされます。

ポート設定

Panorama T4/T6には仮想USBポートが用意されています。これらのポートはNektar DAWインテグレーションを介してDAWと通信するために使用されますが、Nektar DAWインテグレーションまたはNektarineを使用しない場合、モードボタン②の操作でコントロール情報をルーティングすることが可能です。設定手順は以下の通りです：

- Internalボタン②を押して、インターナルモードに切り替えます。
- Setup/Menuボタンを押して、設定メニューに入ります。
- E1/Dataノブ③、または(▼)または上(▲)のメニューボタン④で“Port Setup”を選択します。
- メニューボタンのEnter④を押して、ポート設定メニューに入ります。
- (▼)または上(▲)のメニューボタン④で、ポートと紐付けるボタン(Mixer、Instruments、Multi、Internal)またはパッドを選択します。
- E1/Dataノブ③を使用して、ルーティングを設定します。
- 設定を終えたら、メニューボタンの“Save”を押して、設定を適用します。

モードボタン②の操作で、あらかじめ設定したプリセットのコントロール情報を、ここで設定したUSBポートから送り出すことが可能です。つまり、ボタン操作だけで、異なる特定のポートにMIDI情報を送信することができます。例えば、ドラムパッドのノート情報とキーボードのノート情報を個別のポートで扱うことが可能です。

NektarineまたはNektar DAWインテグレーションを有効にした場合は、USBポート1に全てのルーティング設定が戻ります。

ファクトリーリセット

Panorama T4/T6を工場出荷時の設定に戻すと、全てのユーザープリセットとパッドマップがリセットされます。設定を保持したい場合は、ファクトリーリセットを実行する前に必ずバックアップを取って下さい。プリセットとパッドマップのバックアップ方法については、11ページに記載しています。

以下の操作でPanoramaを工場出荷時の状態に戻すことができます：

- Panorama T4/T6の電源を切ります。
- BrowseとViewボタンを同時に押しながら、Panorama T4/T6の電源を投入します。
- 本体の起動が完了するまで、2つのボタンを押し続けます。

この操作は、様々な理由で最初から設定をやり直したい場合に便利です。

DAWコントロール - 概要

ここではPropellerheads Reason、Steinberg Cubase、Apple Logic等とのDAWインテグレーションに関する設定と操作の概要について解説します。Panorama T4/T6は、DAW、プラグイン、その他のMIDIソフトやハードウェアを柔軟にコントロールできます。Panorama T4/T6のコントロールを設定するアプローチは主に3つあります。

1. Nektar DAWインテグレーションファイルをインストールし、サポートされているDAWで使います。
2. Nektarineをインストールし、VST、VST3、またはAUプラグイン互換のDAWでインストールメントプラグインを制御できるようにします。
3. Panorama T4 / T6のコントロールとMIDIプログラミングオプションを使用し、MIDIソフトウェアまたはハードウェアをコントロールします。

Nektar DAWインテグレーションファイルまたはNektarineのいずれかをダウンロードするには、6ページの「Nektar DAWインテグレーション」の手順に従う必要があります。

MIDIプログラミング設定の詳細については、14ページを参照して下さい。

Nektar DAWインテグレーションとは

DAWインテグレーションはPanoramaとDAWを連動させるための特別な設定ファイルで、対応するDAWごとに用意されています。これらのファイルをインストールすることで、DAWとPanorama間での適切な設定がすぐに行えます。

以下、設定概要と注意点です：

- DAWソフトウェアを起動したことがない場合、インテグレーションファイルをインストールする前に一度起動し、終了します。ソフトウェアによってはインストール後の初回起動時に必要なファイルをインストールしたり、様々な設定を始めたりする場合があります。
- インテグレーションファイルをダウンロードし、展開したフォルダーの中から“Panorama_XXX_Support”を起動し、画面に従ってインストールします。(XXXは、DAWまたはDAWメーカー名、例：Cubaseの場合、インテグレーションファイルは“Panorama_Steinberg_Support”です。)
- インストールが完了したら、Panoramaをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- DAWを起動し、ポートやデバイスを設定します (DAWによっては自動設定されます)。

うまくいかない場合、一度Panoramaに関するファイルを削除の上、再設定を行います。

お使いの環境によってはPanoramaのファームウェアを更新する必要があります。手順についてはウェブサイトまたはファームウェアアップデートの項目に記載しています。

PanoramaのUSBポートは1つですが、コンピューターから見た場合、4つのポートを持つデバイスとして認識されます。

ポート	OSX上の表示	Windows上の表示
1	PANORAMA Panorama	PANORAMA
2	PANORAMA Instrument	MIDIIN2 とMIDOUT2
3	PANORAMA Mixer	MIDIIN3 とMIDOUT3
4	PANORAMA Px ReWire Host	MIDIIN4 とMIDOUT4

*システム環境によっては表示が異なります。

各DAWの注意点：

- LOGIC: Logicを起動する前にPanoramaを接続し、電源を投入します。作業の終了時はLogicを終了してからPanoramaの接続を解除してください。これを怠るとLogicがPanoramaを二重認識する (2台分のPanoramaが設定される) 場合があります。
- REASON: 設定後、ReasonミキサーとPanoramaのミキサーモードのデバイスロックを設定します。Reasonのデバイスロック機能はソングファイルごとの設定となるので、毎回設定を行う手間を省くためテンプレートにして保存することをお勧めします。
- CUBASE: Panoramaのポート1とポート4以外は無効にし、ポート1のみ「ALL MIDI IN」を有効にします。Cubaseの設定項目は“X”に設定した場合がオンです。

以下、Nektar DAWインテグレーションの機能概要です：

- MixerとInstrumentの2つのモードボタンは、DAWのミキサーとインストールメントプラグイン (ソフトウェア音源) の操作対象を切り替えます。
- MultiモードボタンはNektarineに使用されているため、Nektarineがロードされている場合にのみ機能します。
- Track-とTrack+ボタンは操作対象トラックを変更します。
- トランスポートボタンは、DAWのサイクル/ループ、巻き戻し、早送り、停止、再生、録音の各機能を直接コントロールします。
- Shiftボタンを押しながら6つのトランスポートボタンの1つを押すことで、ロケータ操作、アンドゥ、クリック、モード切り替えにアクセスできます。
- ミキサーモードでは、フェーダー1〜8が8つのミキサーチャンネルのコントロールボリュームに割り当てられます。
- フェーダー9は、現在のトラック、またはマスターボリュームの音量をコントロールします。
- Shift + トラック - / + ボタン操作で、ミキサーチャンネルバンクを変更します。
- インストールメントモードにおいてフェーダー1〜8は通常、音源のアンプとフィルターエンベロープをコントロールします。
- フェーダー9はインストールメントの音量をコントロールします。
- ミキサーモードでは、8つエンコーダーは、チャンネルパンとして機能します。
- インストールメントモードでは、8つのエンコーダーは、音源パラメーターを制御します (2ページ構成、最大16のパラメーターが割り当てられます)。

DAWインテグレーション

DAWインテグレーションでは、対応DAWとPanoramaが多彩に連動します。この項目では、インテグレーションした際のPanorama TのMixer、Instrument、Multiモードの役割と機能、操作の概要について解説します。

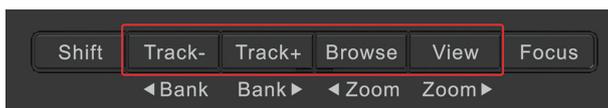
モードとナビゲーション

Panorama Tのモード切り替えボタン②で、DAWソフトウェアの各部と連動した操作が行えます。以下各モードの概要です：



モード	概要
Mixer (ミキサー)	DAWのミキサーを操作するモードです。
Instrument (インストゥルメント)	インストゥルメントプラグイン (ソフトウェア音源) を操作するモードです。
Multi (マルチ)	専用プラグインのNektarineを介し、複数のインストゥルメントプラグインを操作するモードです。このモードでは、各インストゥルメントの音量やパンのミキシングを行い、選択したインストゥルメントをInstrumentモードに切り替えて操作します。
Internal (インターナル)	汎用のMIDIコントローラーとして扱う際のモードです。DAW外のソフトウェア、あるいは他のモードで連動しない手動設定が必要な音源等、追加設定が必要な際に便利です。また、DAWインテグレーションに対応しないDAWソフトウェアのほとんどはこのモードを使用します。

トラック、パッチ、ミキサーバンクの操作



ナビゲーションボタン⑤は、主に連動したDAWのトラックやシーケンスに関する操作をします。概要は以下の通りです：

- **Track - / Track + ボタン**：トラックの選択 (前または次) を行います。
- **Browse ボタン**：Nektarineのブラウザーを操作します。
- **View ボタン**：プラグインの画面等を操作します。
- **< Bank / Bank >** (Shift + Track - / Track +) ボタン：ミキサーモードのフェーダーグループ、つまりバンク (8トラック = 1バンク) の選択 (前または次) を行います。
- **< Zoom / Zoom >** (Shift + Browse / View) ボタン：トラック表示のズーム (拡大また縮小) を行います。

Mixer (ミキサー) モード

Mixerモードでは左から8本のフェーダー⑨と、その下のLEDボタン⑦をDAWのミキサー操作に使用します。エンコーダー③は通常チャンネルパンを扱います。LEDボタン⑦の機能は、フェーダーボタン⑧を併用することで、ミュートもしくはソロに使用できます。

重要なお知らせ：Panoramaの画面表示はDAWと連動します。正しく表示、機能させるために以下の事項をお守り下さい：

- トラック名は半角英数字のみをご使用ください。
- DAWのミキサーチャンネル名とシーケンストラック名が個別に設定できる場合、必ず同じ名前して下さい。

Instrument (インストゥルメント) モード

InstrumentモードではNektarineを介し、選択されているシーケンストラック上のデバイス(インストゥルメント)を操作します。トラックを変更した場合、対象デバイスも連動するので、コントローラーの割り当ても即座に更新されます。

この画面はハードウェアのキーボードワークステーションを彷彿させるスタイルで、デバイス(インストゥルメント)の音色と操作パラメーターを表示します。事前に最適化された設定が用意されたプラグインでは、8つのエンコーダー③にパラメーターが自動的に割り当てられます。デバイスにエンベロープが用意されている場合、8本のフェーダー⑨はアンプリチュード(AMP)とフィルター(FILTER)のADSRエンベロープの操作に割り当てられます。

ヒント:インストゥルメントのパラメーターはDAWのオートメーションパラメーターと連動しますので、対応リストにないプラグインでもオートメーション情報を使用してパラメーターがある程度、自動で割り振られます。なお、NI KontaktやUVI Workstation等のプラグインでは、ソフトウェア側で必要なパラメーターを事前にオートメーション設定する必要があります。

Multi (マルチ) モード

MultiモードはNektarineを使って複数のデバイス(インストゥルメント)を組み合わせ、音色を構成する際に使用します。

ここでは、各音色のボリュームやパン、デバイス(インストゥルメント)の選択ができます。選択されたデバイスはInstrumentモードに切り替えることで、詳細なエディットを行えます。

Internal (インターナル) モード

Internalモードでは、フェーダー⑨やエンコーダー③、LEDボタン⑦を、汎用のMIDIコントローラーとして使用します。DAWと組み合わせる場合は、エフェクトの操作等に使用すると良いでしょう。ほとんどのDAWやソフトウェアに備わるMIDIランと呼ばれるコントローラーの学習機を活用し、Panoramaを設定します。概要は以下の通りです:

1. Panorama TをInternalモードに設定します。
2. ソフトウェアのパラメーターを右クリックし、MIDIラン(MIDI Learn)を有効にします。
3. Panorama Tのコントローラーを動かし、パラメーターと連動させて設定していきます。
4. 上記の手順2と3を繰り返し、必要なパラメーターの割り当てを完了させます。

メモ:MIDI Learnに関する具体的な設定や詳細は、対象となるDAWやソフトウェアのマニュアルをご覧ください。MIDIラン機能は、ソフトウェアによって呼び方が異なります。MIDIマッピング、リモートオーバーライト等、その呼称は統一されたものではありません。

注意:MixerモードとInstrumentモードでも同様の設定は可能ですが、DAWインテグレーションの関連付けが機能しなくなりますので推奨しません。

ドラムパッド

Panoramaのドラムパッド⑩は、前述の通り、ドラムやパーカッション音源の演奏以外にもメロディ演奏としての機能も備えています。また、DAWと連動した場合には、これらのパッドをDAW標準装備のドラム音源の演奏に使用できます。例えばReasonの場合、Kong、ReDrum、Dr. Octo RexがPanoramaのパッドと連動し、演奏することができます。

DAW設定ガイド - Bitwig

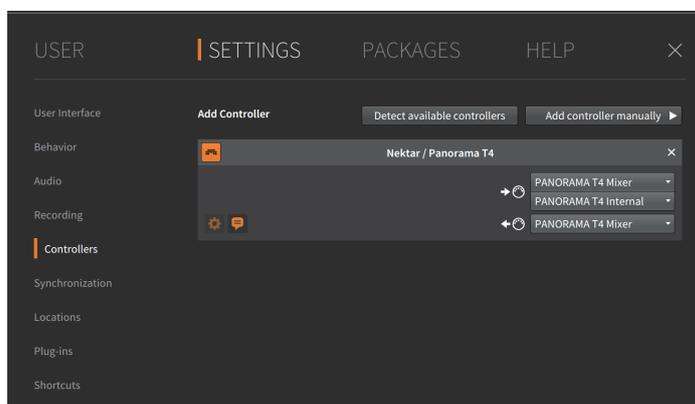
Panorama TはBitwigインテグレーションファイルで、Bitwig Studio及びBitwig 8-Trackと連動します。

設定

Panorama TとBitwig Studio、Bitwig 8-Trackの設定手順は、以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Bitwigのインストールを完了し、一度起動しておきます。これはBitwig自体の動作に必要なファイルをインストールするための必須作業です。
- Bitwigを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Panorama_T4_T6_Bitwig_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを行います。
- インストール完了後、Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Bitwigを起動し、Optionsメニューから、Preferencesを選び、Controllersタブを開きます。
- “Detect available controllers”をクリックし、自動検知でPanorama Tを設定します。
- 完了したら、“OK”ボタンをクリックし、デバイス設定を終了します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。



インストールと設定が完了したら、Panorama Tを使用してBitwig StudioまたはBitwig 8-Trackで以下の操作が行えます。

下表はBitwigのトランスポートに関する操作の一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認し、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	サイクル(ループ) オン/オフ	Shift +	ループ開始ポイントに移動
	巻戻し、1小節または継続	Shift +	ソングポジションをループの開始に設定
	早送り、1小節または継続	Shift +	ソングポジションをループの終端に設定
	停止	Shift +	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift +	メトロノームのオン/オフ
	録音	Shift +	オーバーダビングのオン/オフ

DAW設定ガイド - Bitwig

ソフトテイクオーバー

通常、Bitwigのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプします。Panorama Tではこの現象を防ぐために、ソフトウェアテイクオーバー機能を装備しています。これによってノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ナビゲーションボタン

下表はBitwigのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser	BitWigブラウザーを表示	Shift + Browser	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
View	選択トラックのデバイスチェーンを表示/非表示 VSTデバイス選択時はプラグイン画面の表示/非表示	Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードでは、以下の操作が可能です：

Mixerモードボタン：1度のボタン操作で、ミキサーモードにアクセスします。押しごとにBitWig Studioのミキサー画面の表示/非表示を操作できます。

フェーダー

1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。

フェーダー9は現在選択されているトラックの音量を操作します。

フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。

フェーダーボタン

1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。

フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソロを操作できます。

エンコーダー

ディスプレイボタンの操作に従って、操作対象が変わります：

PAN：現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。

SEND：現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。

DEVICE：現在選択されているBitWigデバイスを操作します。

• デバイスメニュー

ディスプレイボタンのDEVICEを操作することで、デバイスの操作メニューにアクセスします。以下のディスプレイボタンが用意されています：

< ボタンで1つ前のデバイスに切り替えます。

> ボタンで次のデバイスに切り替えます。

DEVICESボタン操作で、Panorama Tの画面表示をミキサーとデバイスコントロールに切り替えます。

PAGESボタン操作で、Panorama Tの画面表示をページメニューに切り替えます。

ページメニュー：

E1エンコーダーで、メニューページを選択します。

ENTERボタンで、選択したページを表示します。

ESCボタン操作で、ページ選択をキャンセルして元の画面に戻ります。

+ ボタンが表示されている場合は、その操作でBitWigのブラウザーが開き、デバイスの追加が可能になります。

BITWIGボタンで、BitWigデバイスのみと全デバイスの表示を切り替えます。

PREVボタンでブラウザー上の1つ前のデバイスを選択します。

NEXTボタンでブラウザー上の1つ次のデバイスを選択します。

ENTERボタンでブラウザー上で選択したデバイスを追加します。

BROWSEボタンで選択デバイスのプリセットブラウザーにアクセスします。ボタンを再度押しすとブラウザーは閉じます。

• WRITEボタン

アレンジメントのオートメーションレコーディングをオン/オフします。

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードでは、以下の操作が可能です：

選択トラックのデバイスチェーンにインストゥルメントが存在しない場合、このモードは無効です。

インストゥルメントの追加にはマウスを使用します。

• フェーダー：

1~8は、あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。

フェーダー9は基本、インストゥルメントのマスターボリュームを扱います。

• エンコーダー：

あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。

• フェーダーボタン：

リモート操作ページにダイレクトアクセスします。

VSTインストゥルメントはViewボタン操作で、そのインストゥルメント固有の画面にアクセスすることが可能です。

必要なパラメーターが操作できない場合、Panorama TのクイックGrab (Quick Grab) 機能を使用して、設定をやり直すことが可能です。

クイックGrabモード

以下の操作で、デバイスのコントロール設定を素早く変更できます：

• INSTRUMENTボタンを押してインストゥルメントモードにします。

• Viewボタンを押してデバイスチェーンを表示します。VSTプラグインの場合は、Viewボタンを押したままにしてプラグイン画面を表示します。

• Panorama TのShiftボタンを押しながら、マウスで変更対象のパラメーターを動かします。

• Shiftボタンを離して、次に操作をするPanorama Tのエンコーダーやフェーダーあるいはボタンを操作して割り当てます。

コントロール割り当てのデフォルト設定

デバイスのデフォルト設定を変更するにはBitWig上のHOME画面で行います：

• INSTRUMENTボタンを押してインストゥルメントモードにします。

• BitWigデバイスを右クリックし、Show Remote Controlsをメニューから選びます。

• ページリストのスプナアイコンをクリックして、リモートコントロールエディターを開きます。

• デバイスページで新しいページを追加します。

• ページ名をHOMEに設定することで、このページでのリモートコントロール設定がデフォルト設定になります。

DAW設定ガイド - Bitwig

Performページ

いくつかのデバイスプリセットには、Performと呼ばれる操作ページが用意され、演奏時によく使われるパラメーターが割り当てられています。アクセス方法は次の通りです：

- INSTRUMENTボタンを押してインストゥルメントモードにします。
- SETUP/MEMUボタンを押します。
- ディスプレイボタンのPERFORMを押します。

リモートページ操作

フェーダーボタン1~8の操作で、以下のリモート操作ページにダイレクトアクセス可能です：

ボタン1 = OSC1 (オシレーター1)

ボタン2 = OSC2 (オシレーター2)

ボタン3 = FILTER (フィルター)

ボタン4 = ENV (エンベロープ)

ボタン5 = LFO1

ボタン6 = LFO2

ボタン7 = FX1 (エフェクト1)

ボタン8 = FX2 (エフェクト2)

ボタンのタグ付けは変更可能です。変更するにはBitwig上で行います：

- Bitwigデバイスを右クリックし、Show Remote Controlsをメニューから選びます。
- ページリストのスパナアイコンをクリックして、リモートコントロールエディターを開きます。
- デバイスページの一覧でページのタグを上記の名前に変更することで、ボタンとページがタグ付けされます。

ボタン(タグ)名は便宜上使用していますので、実際のパラメーターはこれに縛られることはありません。例えば、LFOページにフィルターパラメーターを設定しても構いません。

クイックグラフ機能で、各画面の設定を変更することも可能です。

インストゥルメントの追加

- Panorama TのShift + Instrumentボタン操作で、Bitwigブラウザを開いて、インストゥルメントの追加が可能になります。実行すると、選択したインストゥルメントを含む新規トラックが作成されます。
- Browseボタン操作で追加をキャンセルし、ブラウザ画面を閉じます。

マルチモード

マルチモードでは、Bitwigのインストゥルメントレイヤーデバイスの操作(最初の8つのレイヤーのみにアクセス可能)が可能です：

- パッドはインストゥルメントレイヤーの選択に使用します。
- ディスプレイボタンで、レイヤーの操作モードを切り替えます。
 - MIXERボタンは、フェーダー1~8のレイヤーボリューム操作に切り替えます。
 - REMOTEボタンは、エンコーダー操作をするインストゥルメントレイヤーのページを選択します。
 - MUTEボタンは、パッドによるインストゥルメントレイヤーのミュート操作に使用します。
 - SOLOボタンは、パッドによるインストゥルメントレイヤーのミュート操作に使用します。

パッドの色でレイヤーの状態を示します：

消灯：レイヤー無し

黄色：選択レイヤー

赤色：ミュート

緑色：ソロ

DAW設定ガイド - Bitwig

ビート操作

BitWigのドラムマシンラックを選択した場合、以下の操作が可能になります。

ドラムパッド

ドラムマシンラックのパッドと連動したサンプルトリガーが可能です：

パッドの色でその状態を示します：

消灯：サンプル無し

黄色：サンプルあり = 演奏可能

赤色：ミュート

緑色：ソロ

パッドバンクボタンで、パッド1-8と9-16を切り替えます。

ディスプレイボタンで、パッドの操作モードを切り替えます。

MIXERボタンは、フェーダー1~8のパッドボリューム操作に切り替えます。

REMOTEボタンは、エンコーダー操作をするドラムマシンのページを選択します。

MUTEボタンは、パッドによるサンプルミュート操作モードに切り替えます。

SOLOボタンは、パッドによるサンプル操作モードに切り替えます。

エンコーダーとフェーダーは通常、ドラムマシンスロットのデバイス操作に使用します。操作はパッドを叩いてから1.5秒以内になります。

シーンとクリップ操作

以下の操作で、BitWigのシーンとクリップ操作が可能です：

SETUP/MEMUボタンを押して、以下のディスプレイボタンから以下の操作にアクセスします：

SCENESボタンで、パッドをシーントリガーモードに切り替えます。

CLIPSボタンで、パッドをクリップトリガーモードに切り替えます。

TEMPOボタンを押している間、E1/DATAノブでテンポ変更が行えます。

PERFORMボタンで、Performページに切り替えます。(インストゥルメントモードのみ)

Shift + SCENESボタンでクリップランチャーの表示/非表示を切り替えます。

シーンとクリップモードでは、パッドの色でその状態を示します：

消灯：クリップ無し

黄色：クリップ停止

赤色：クリップ録音中または可能状態

緑色：クリップ再生中または可能状態

Shift + 消灯のパッド操作で、空クリップを作成します。

Shift + 緑/赤色のパッド操作で、クリップを停止します。

Shift + 黄色のパッド操作で、クリップを削除します。

パッドバンクボタン+パッド1-8操作で、選択トラックのクリップバンクを切り替えます。(最大8x8で64クリップのアクセス可能)

シーンモードではさらに以下のディスプレイボタン操作が可能です：

VIEWボタンで、パッドトリガーしたシーン名を表示します。

LINK > Tボタンで、シーントリガーとともに特定のトラックを選択します。

パッドバンクボタン+パッド1-8操作で、シーンバンクを切り替えます。(最大8x8で64シーンのアクセス可能)

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

Panorama TはCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のCubaseと連動します。ここではCubaseで解説をしていますが、Nuendoでも同様の設定が行えます。

設定

Panorama TとCubaseの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Panorama_T4_T6_Steinberg_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを行います。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Cubaseを起動し、スタジオ > スタジオ設定 (バージョンによってはデバイス > デバイス設定) > MIDIポートの設定を開きます。
- Panorama T Internal (macOS)/PANORAMA T (Win) を除くすべてのPanorama Tのポートの「All MIDI Inputs」に含める項目のチェックを外します。
- Panorama Tがリモートデバイスの箇所にリスト表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、「OK」ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

macOSの場合：

MIDIポートの設定

I/O	ポートシステム名	表示名	表示	状況	「All MIDI Inputs」に含める
イン	PANORAMA T4 Instrument	PANORAMA T4 Instrument	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
イン	PANORAMA T4 Internal	PANORAMA T4 Internal	☒	アクティブ	☒
イン	PANORAMA T4 Mixer	PANORAMA T4 Mixer	☒	アクティブ	<input type="checkbox"/>
イン	PANORAMA T4 Plugin	PANORAMA T4 Plugin	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
アウト	PANORAMA T4 Instrument	PANORAMA T4 Instrument	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
アウト	PANORAMA T4 Internal	PANORAMA T4 Internal	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
アウト	PANORAMA T4 Mixer	PANORAMA T4 Mixer	☒	アクティブ	<input type="checkbox"/>
アウト	PANORAMA T4 Plugin	PANORAMA T4 Plugin	☒	オフ	<input type="checkbox"/>

Windowsの場合：

MIDIポートの設定

デバイス	I/O	ポートシステム名	表示名	表示	状況	「All MIDI Inputs」に含める
Windows MIDI	イン	MIDIIN2 (PANORAMA T4)	MIDIIN2 (PANORAMA T4)	☒	アクティブ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	イン	MIDIIN3 (PANORAMA T4)	MIDIIN3 (PANORAMA T4)	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	イン	MIDIIN4 (PANORAMA T4)	MIDIIN4 (PANORAMA T4)	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	イン	PANORAMA T4	PANORAMA T4	☒	アクティブ	☒
Windows MIDI	アウト	MIDIOUT2 (PANORAMA T4)	MIDIOUT2 (PANORAMA T4)	☒	アクティブ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	アウト	MIDIOUT3 (PANORAMA T4)	MIDIOUT3 (PANORAMA T4)	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	アウト	MIDIOUT4 (PANORAMA T4)	MIDIOUT4 (PANORAMA T4)	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	アウト	Microsoft GS Wavetable Synth	Microsoft GS Wavetable Synth	☒	オフ	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	アウト	PANORAMA T4	PANORAMA T4	☒	オフ	<input type="checkbox"/>

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、CubaseまたはNuendoで以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoのトランスポートに関する操作の一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかを確認し、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン・オフ	Shift +	左ロケータに移動
	巻戻し、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを左ロケータに設定
	早送り、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを右ロケータに設定
	停止	Shift +	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift +	メトロノームのオン・オフ
	録音	Shift +	オーバーダビングのオン・オフ

ソフトテイクオーバー

通常、Cubase/Nuendoのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプします。Panorama Tではこの現象を防ぐために、ソフトウェアテイクオーバー機能を装備しています。これによってノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ナビゲーションボタン

下表はCubase/Nuendoのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser	Nektarineのブラウザーを表示	Shift + Browser	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
View	VSTデバイス選択時はプラグイン画面の表示/非表示	Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードでは、以下の操作が可能です：

- Mixerモードボタン：ミキサーモードにアクセスします。Shift+Mixerボタンでミキサー画面の表示/非表示を操作できます。
- フェーダー
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
 - フェーダー9は現在選択されているトラックの音量操作をします。
 - フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。
- フェーダーボタン
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
 - フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソロを操作できます。
- エンコーダー
 - ディスプレイボタン操作に従って、操作対象が変わります：
 - PAN：現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
 - SEND：現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。
 - Q CTRLS：現在選択されているエフェクトプラグインのQコントロールを操作します。
 - *プラグインによっては、手動でQ(クイック)コントロールをする必要があります。
- ディスプレイボタン：
WRITE：選択トラックのオートメーション書き込みをオン/オフします。

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードでは、以下の操作が可能です：

- instrumentモードボタン：インストゥルメントモードにアクセスします。Viewボタンでインストゥルメント画面の表示/非表示を操作できます。
- 選択トラックにVSTインストゥルメントが存在しない場合、このモードは無効です。
- インストゥルメントの追加はマウスを使用します。
- エンコーダー：
あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
- フェーダー：
1~8は主にエンベロープ等のあらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
インストゥルメントによっては、フェーダー9がマスターボリュームとして機能します。
- フェーダーボタン9：
エンコーダーやフェーダー設定割り当ての表示の切り替えをします。
- ディスプレイボタン：
DEFAULT：デフォルト設定のパラメーター割り当てを使用します。
USER：ユーザー設定のパラメーター割り当てを使用します。通常はデフォルト設定、と同じものが設定されます。
< PATCH：インストゥルメントプリセットを1つ前に切り替えます。
PATCH >：インストゥルメントプリセットを1つ次に切り替えます。

ユーザー設定の割り当て手順

以下の操作でユーザー設定のコントロールを割り当てられます(割り当てができないインストゥルメントもあります)：

- インストゥルメントの画面を表示します。
- Panorama TのShiftボタンを押しながら、マウスで変更対象のパラメーターを動かします。
- Shiftボタンを離して、次に操作をするPanorama Tのエンコーダーやフェーダーあるいはボタンを操作して割り当てます。

ユーザー設定の保存

ユーザー設定はCubaseのプロジェクトには含まれないため、以下の操作で保存を行います：

- Shiftボタンを2回、素早く押します。
- これで、設定がコンピューターのDocuments\Nektar\PanoramaT4T6\Mapping Files\Instrumentsに保存されます。
- このファイルを削除すると、デフォルト設定に戻ります。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

DAW設定ガイド - GarageBand

Panorama TのAppleインテグレーションは、バージョン10以降のGarageBandと連動します。

設定

Panorama TとGarageBandの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：IPanorama_T4_T6_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを行います。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

以上で設定は完了です。

GarageBandの操作

インストーと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、GarageBandで以下の操作が行えます。

下表はGarageBandのトランスポートに関する操作の一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかを確認し、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン・オフ	Shift + 	左ロケータに移動
	巻戻し	Shift + 	ソングポジションを左ロケータに設定
	早送り	Shift + 	ソングポジションを右ロケータに設定
	停止	Shift + 	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift + 	メトロノームのオン/オフ
	録音		

*ループ/サイクルエリアが設定されている場合のみ機能します。

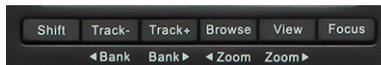
ソフトテイクオーバー

通常、GarageBandのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプします。Panorama Tではこの現象を防ぐために、ソフトウェアテイクオーバー機能を装備しています。これによってノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

DAW設定ガイド - GarageBand

ナビゲーションボタン

下表はGarageBandのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser	Nektarineのブラウザーを表示	Shift + Browser	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
		Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードでは、以下の操作が可能です：

- フェーダー
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
フェーダー9は現在選択されているトラックの音量操作をします。
フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。
- フェーダーボタン
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソロを操作できます。
- エンコーダー
ディスプレイボタン操作に従って、操作対象が変わります：
PAN：現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
SEND：現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。
SAMRT：現在選択されているエフェクトやソフトウェア音源のスマートコントロールを操作します。
*プラグインによっては、手動でスマートコントロールを設定する必要があります。

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

マーカーモードとアルペジエーターオン/オフ

GarageBandでは追加機能が用意されています。Setup/Menuボタンを押すことで、以下のディスプレイボタンメニューにアクセスします：

- MARKER：パッドを使用したマーカー操作モードにアクセスします。マーカーモードでは以下のメニューボタン操作が可能です：
- NEW：再生中にこのボタンを押して、さらにパッドを操作するとそのパッドに現在ソングポジションがマーカー保存されます。
- DEL：選択したマーカーパッドの設定を消去します。
- ARP：選択トラックのLogic内蔵アルペジエーターのオン/オフを操作します。

DAW設定ガイド - Logic

Panorama TのAppleインテグレーションはバージョン9以降のLogicと連動します。

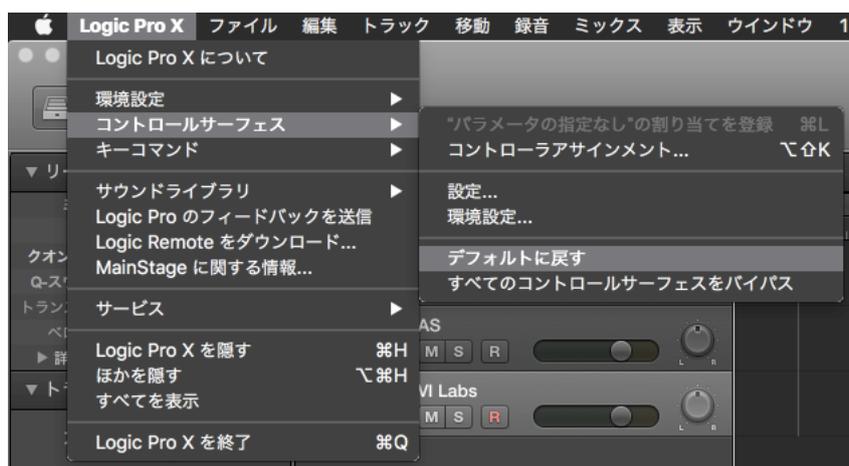
設定

Panorama TとLogicの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Panorama_T4_T6_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを行います
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Logicを起動し、トラックを一つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの画面を表示します。画像例のように表示されていれば、正しくインストールされたことになりますので、問題がなければ画面を閉じます。
- 念のために“Logic Pro”メニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”を選択し、実行します。

これで設定完了です。

*デフォルトに戻す操作は、Panorama TをLogic以外のインテグレーション対応DAWを使用した後に、Logicで使用する場合に行う必要があります。



DAW設定ガイド - Logic

インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、Logicで以下の操作が行えます。

下表はLogicのトランスポートに関する操作の一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかを確認し、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。



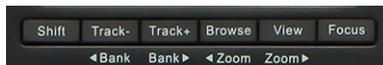
通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン・オフ	Shift +	左ロケータに移動
	巻戻し	Shift +	ソングポジションを左ロケータに設定
	早送り	Shift +	ソングポジションを右ロケータに設定
	停止	Shift +	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift +	メトロノームのオン/オフ
	録音	Shift +	オートメーションモードの切替

ソフトテイクオーバー

通常、Logicのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプします。Panorama Tではこの現象を防ぐために、ソフトウェアテイクオーバー機能を装備しています。これによってノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ナビゲーションボタン

下表はLogicのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Brower	Nektarineのブラウザーを表示	Shift + Brower	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
View	ソフトウェア音源画面の表示/非表示	Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

DAW設定ガイド - Logic

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードでは、以下の操作が可能です：

- **Mixerモードボタン**：1度のボタン操作で、ミキサーモードにアクセスします。もう一度押すとLogicのミキサー画面の表示/非表示を操作できます。
- **フェーダー**
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
フェーダー9は現在選択されているトラックの音量操作をします。
フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。
- **フェーダーボタン**
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソコを操作できます。
- **エンコーダー**
ディスプレイボタン操作に従って、操作対象が変わります：
PAN：現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
SEND：現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。
SAMRT：現在選択されているプラグインのスマートコントロールを操作をします。
WRITE：ラッチオートメーションのオン/オフを設定します。
*プラグインによっては、手動でスマートコントロールを設定する必要があります。

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードでは、以下の操作が可能です：

- **instrumentモードボタン**：インストゥルメントモードにアクセスします。Viewボタンでインストゥルメント画面の表示/非表示を操作できます。
- **選択トラックにソフトウェア音源が存在しない場合**、このモードは無効です。
- **ソフトウェア音源トラックの追加**はマウスまたはPanorama TのShift + Instrumentボタンの同時押しを使用します。
- **エンコーダー**：
あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
- **フェーダー**：
1~8は主にエペローブなどのあらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
フェーダー9は通常、ソフトウェア音源のマスターボリューム操作に設定されています。
- **フェーダーボタン9**：
エンコーダーやフェーダー設定割り当ての表示を切り替えます。
- **ディスプレイボタン**：
DEFAULT：デフォルト設定のパラメーター割り当てを使用します。
USER：ユーザー設定のパラメーター割り当てを使用します。通常はデフォルト設定、と同じものが設定されます。
< PATCH：ソフトウェア音源プリセットを1つ前に切り替えます。
PATCH >：ソフトウェア音源プリセットを1つ次に切り替えます。
*8つ以上のパラメーター操作やパラメーター操作できないソフトウェア音源は、Nektarineを使用します。

ユーザー設定の割り当て手順

以下の操作で、ユーザー設定のコントロール割り当てます：

- **ソフトウェア音源の画面**を表示します。
- **コンピューターキーボードのcommand + L**を押して、"コントローラアサインメント"画面を開き、"簡易表示"モードにします。
- **Panorama Tのエンコーダーやフェーダー**あるいはボタンを操作して割り当てをします。
- **Panorama TのInstrumentボタン**を押して、設定したエンコーダーやフェーダーが正常動作するかどうか確認します。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

マーカーモードとアルペジエーターオン/オフ

Logicでは追加機能がディスプレイ操作に用意されています。Setup/Menuボタンを押すことで、以下のディスプレイボタンメニューにアクセスします：

- **MARKER**：パッドを使用したマーカー操作モードにアクセスします。マーカーモードでは以下のメニューボタン操作が可能です：
- **NEW**：再生中にこのボタンを押して、さらにパッドを操作するとそのパッドに現在ソングポジションがマーカー保存されます。
- **DEL**：選択したマーカーパッドの設定を消去します。
- **ARP**：選択トラックのLogic内蔵アルペジエーターのオン/オフを操作します。

DAW設定ガイド - Reaper

Panorama TのReaperインテグレーションは、バージョン4.59以降のReaperと連動します。

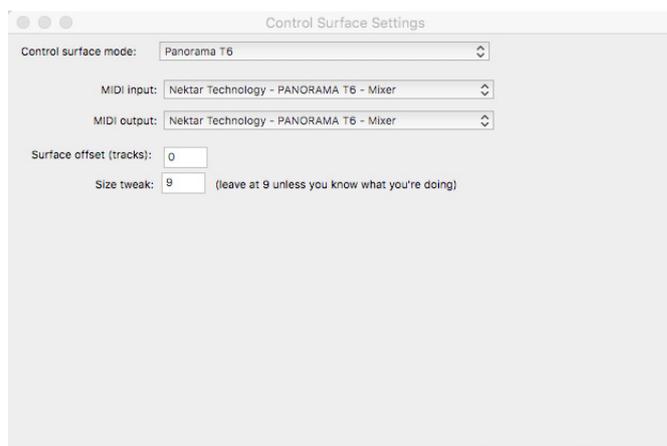
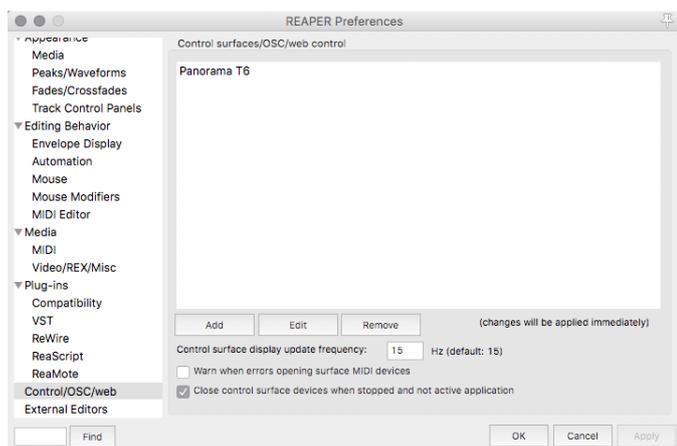
設定

Panorama TとReaperの設定は以下の通りです：

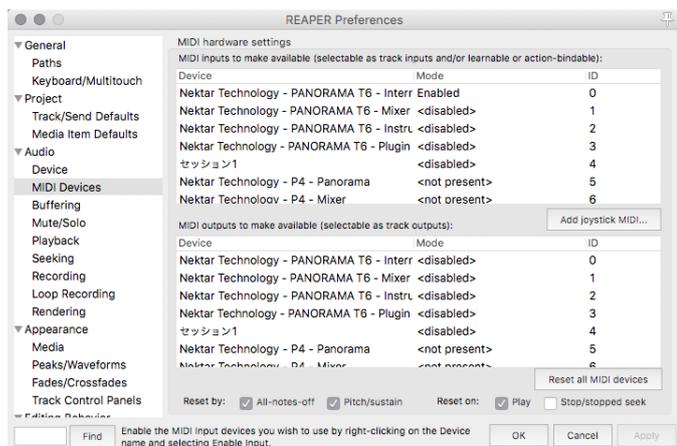
- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Reaperのインストールを完了し、一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールするための必須作業です。
- インテグレーションファイル：Panorama_T4_T6_Reaper_supportをダウンロードして、画面に従ってインストールを行います。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Reaperを起動し、Optionsメニューから、Preferences、そしてControl/OSC/webを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でPanorama Tを“Control surface mode”のリストから選び、ReaperがPanorama Tを検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認し、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 次に Preferences > Audio/MIDI Devicesで、Panorama Tのポート1 (Internal) を有効にします。このポートは“Enable”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。

コントロール設定



MIDI設定



DAW設定ガイド - Reaper

インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、Reaperで以下の操作が行えます。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン・オフ	Shift +	左ロケーターに移動
	巻戻し、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを左ロケーターに設定
	早送り、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを右ロケーターに設定
	停止	Shift +	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift +	メトロノームのオン/オフ
	録音	Shift +	オーバーダビングモードのオン/オフ

ナビゲーションボタン

下表はナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser	Nektarineのブラウザーを表示	Shift + Browser	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
View	ソフトウェア音源画面の表示/非表示	Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードでは、以下の操作が可能です：

- フェーダー**
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
 - フェーダー9は現在選択されているトラックの音量操作をします。
 - フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。
- フェーダーボタン**
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
 - フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソロを操作できます。
- エンコーダー**
 - ディスプレイボタン操作に従って、操作対象が変わります：
 - PAN: 現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
 - SEND: 現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。
 - WRITE: ラッチオートメーションのオン/オフを設定します。

DAW設定ガイド - Reaper

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードでは、以下の操作が可能です：

- 選択トラックにインストゥルメントが存在しない場合、このモードは無効です。
- インストゥルメントの追加はマウスを使用します。
- エンコーダー：
あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
- フェーダー：
1~8は主にエベローブなどのあらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
フェーダー9は通常、インストゥルメントのマスターボリューム操作に設定されています。
- フェーダーボタン9：
エンコーダーやフェーダー設定割り当ての表示を切り替えます。
- ディスプレイボタン：
DEFAULT: デフォルト設定のパラメーター割り当てを使用します。
USER: ユーザー設定のパラメーター割り当てを使用します。通常はデフォルト設定、と同じものが設定されます。
< PATCH: インストゥルメントプリセットを1つ前に切り替えます。
PATCH >: インストゥルメントプリセットを1つ次に切り替えます。
*8つ以上のパラメーター操作やパラメーター操作できないインストゥルメントは、Nektarineを使用します。

ユーザー設定の割り当て手順

以下の操作でユーザー設定のコントロールを割り当てられます (割り当てができないインストゥルメントもあります)：

- インストゥルメントの画面を表示します。
- Panorama TのShiftボタンを押しながら、マウスで変更対象のパラメーターを動かします。
- Shiftボタンを離して、次に操作をするPanorama Tのエンコーダーやフェーダーあるいはボタンを操作して割り当てます。

ユーザー設定の保存

ユーザー設定はCubaseのプロジェクトには含まれないため、以下の操作で保存を行います：

- Shiftボタンを2回、素早く押します。
- これで、設定がコンピューターのDocuments\Nektar\PanoramaT4T6\Mapping Files\Instrumentsに保存されます。
- このファイルを削除すると、初期状態のデフォルト設定に戻ります。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

DAW設定ガイド - Reason

Panorama TのReasonインテグレーションは、バージョン5以降のReasonと連動します。

設定

Panorama TとReasonの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Reaperのインストールを完了し、一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールするための必須作業です。
- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Panorama_T4_T6_Reason_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを行います。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にPanorama Tが表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を完了します。

これで設定は完了です。

手動設定

ReasonでPanorama TのMIDIポートを手動設定をする場合、以下の手順に従います：

- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開き、“追加”ボタンを押します。
- Panorama Tを追加し、画像例の通りにポートを設定します。



DAW設定ガイド - Reason

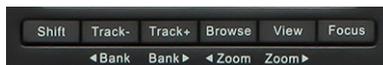
インストールと設定を終えたら、Impact GXを使用し、Reasonで以下の操作が行えます。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン/オフ	Shift +	左ロケータに移動
	巻戻し、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを左ロケータに設定
	早送り、1小節または継続	Shift +	ソングポジションを右ロケータに設定
	停止	Shift +	アンドゥ(取り消し)
	再生、再操作でポーズ	Shift +	メトロノームのオン/オフ
	録音	Shift +	Qレコードのオン/オフ

ナビゲーションボタン

下表はナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browse	Nektarineのブラウザーを表示	Shift + Browse	アレンジメント/エディット表示の水平方向拡大
View	ミキサーとトラックの表示切替	Shift + View	アレンジメント/エディット表示の水平方向縮小

ソフトテイクオーバー

通常、ミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプします。Panorama Tではこの現象を防ぐために、ソフトウェアテイクオーバー機能を装備しています。これによってノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモードを扱うにはまず、Reason側でPanorama T Mixerをミキサーコントロールとしてロックします。

ロック後、以下の操作が可能になります：

- **フェーダー**
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
 - フェーダー9は現在選択されているトラックの音量を操作します。
 - フェーダーボタン9を押しながらフェーダー9を操作することで、マスターボリュームの調整が行えます。
- **フェーダーボタン**
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
 - フェーダーボタン9を押しながら1~8のボタンを操作することで、各トラックのソロを操作できます。
- **エンコーダー**
 - ディスプレイボタン操作に従って、操作対象が変わります：
 - PAN: 現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
 - SEND: 現在設定されているチャンネルバンクのトラックセンドを操作します。
 - EQ: 現在選択されているトラックのEQパラメーターを操作します。
 - DYNAMICS: 現在選択されているトラックのダイナミクスパラメーターを操作します。
 - WRITE: オートメーションレコーディングのオン/オフを設定します。

DAW設定ガイド - Reason

インストゥルメントモード

Panorama Tのインストゥルメントモードでは、以下の操作が可能です：

- 選択トラックのデバイスチェーンにインストゥルメントが存在しない場合、このモードは無効です。
- インストゥルメントの追加はマウスを使用します。
- フェーダー：
 - 1~8は、あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
 - フェーダー9は基本、インストゥルメントのマスターボリュームを扱います。
- エンコーダー：
 - あらかじめ設定されたパラメーターを操作します。
- フェーダーボタン：
 - リモート操作ページにダイレクトアクセスします。

VSTインストゥルメントはViewボタン操作で、そのインストゥルメント固有の画面にアクセスすることが可能です。

必要なパラメーターが操作できない場合は、Panorama TのGrab (Grab) 機能を使用して、設定をやり直すことが可能です。

Grabモード

以下の操作で、デバイスのコントロール設定を素早く変更できます：

- INSTRUMENTボタンを押してインストゥルメントモードにします。
- インストゥルメントの画面を表示します。
- Panorama TのShiftボタンを押しながら、マウスで変更対象のパラメーターを動かします。
- Shiftボタンを離して、次に操作をするPanorama Tのエンコーダーやフェーダーあるいはボタンを操作して割り当てます。

*Grab機能はReasonを開いている時のみ有効の一時設定になります。恒久的な設定をする場合は、Reasonのリモートオーバーライド機能を使用します。

リモートオーバーライド

Reasonのリモートオーバーライド (Remote Override) 機能を使うことで、Panorama TのコントロールプリセットとReasonソングと紐付けることが可能です。設定に関しては、Reasonのマニュアルをご覧ください。

VSTインストゥルメントとNektarine

通常、インストゥルメントモードでは、VSTインストゥルメントに対して、フェーダーと2つのエンコーダーページ (=24パラメーター) 分の操作が可能です。より多くのパラメーター操作をご希望の場合は、Nektarineを使用します。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードは、Nektarineを使用した時のみ有効です。

タップテンポとシーン操作

以下の操作で、Reasonのテンポとシーン操作が可能です。

- SETUP/MEMUボタンを押して、以下のディスプレイボタンから以下の操作にアクセスします：
 - SCENESボタンで、パッドをシーントリガーモードに切り替えます。
 - TEMPOボタンを押している間、E1/DATAノブでテンポ変更が行えます。
- シーンモードではさらに以下のディスプレイボタン操作が可能です：
 - LENGTHボタンで、パッドトリガーしたシーンの長さを設定します。
 - RESETボタンで、選択パッドに対するシーンの長さを現在のループポイント設定に合わせます。

DAW設定ガイド - Digital Performer (MCUモード)

Panorama Tは、Mackie Controllerの互換デバイスとして、MOTU Digital Performerで扱えます。
(MCUの場合、お使いのソフトウェアのバージョンによっては、使用できる機能が異なる場合があります)

設定

Panorama TとDigital Performerの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動していない状態で、Panorama TをMCUモードに切り替えます。(Octave - と + ボタンを同時に押し、Global Settingsメニューに入り、エンコーダー8を使用して、MCUに設定します。)
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン(アウトポートポートの右横)をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Mackie Controlを選択します。
- “ユニット”の項目から、Mackie Controlを選択します。
- “インポートポート”にPanorama T Mixerを設定します。
- “アウトポートポート”はPanorama T Mixerを設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。



インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、Digital Performerで以下の操作が行えます。

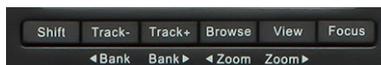


通常時	
ボタン	機能
	巻戻し、低速または高速
	早送り、低速または高速
	停止
	再生
	録音

DAW設定ガイド - Digital Performer (MCUモード)

ナビゲーションボタン

下表はMackie Controllerモードのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -		Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +		Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser			

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモード(工場出荷時のプリセット4:GM MIX1が割り当てられている場合)では、以下の操作が可能です:

- **フェーダー:**
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
- **フェーダーボタン:**
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
- **エンコーダー:**
現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。
自由なMIDIコントロール設定に使用できます。
エフェクトプラグイン操作をする場合は、Digital Performerで予めコンソール作成して、コントロールの学習をします。

DAW設定ガイド - FL Studio (MCUモード)

Panorama Tは、Mackie Control Universalの互換デバイスとして、FL Studioで扱えます。

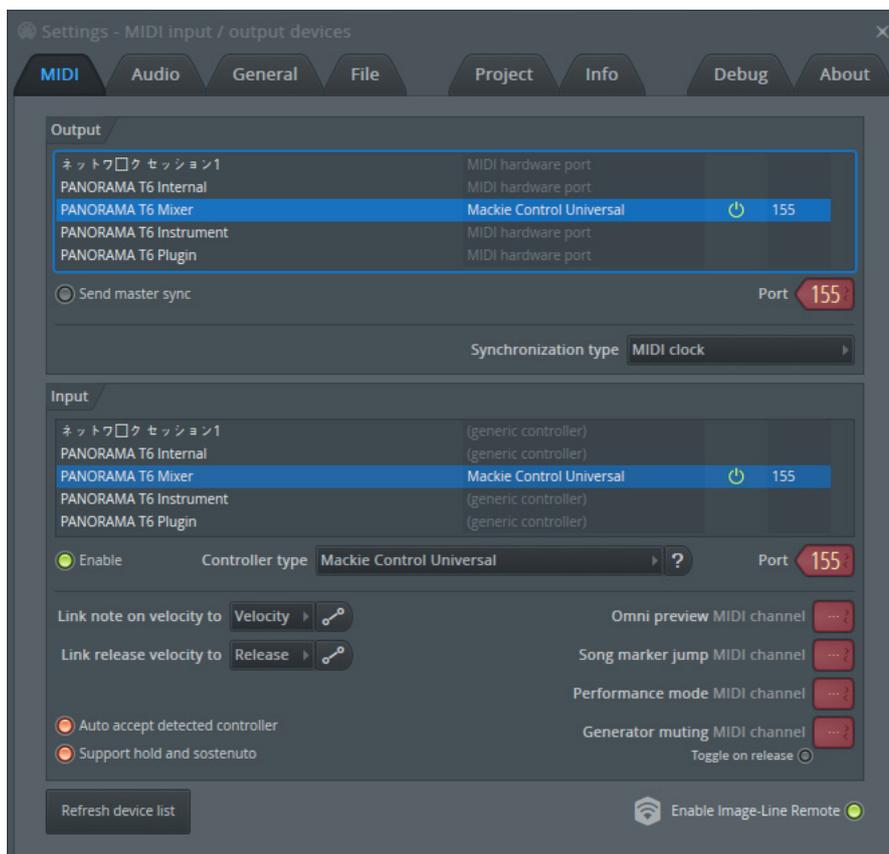
(MCUの場合、お使いのソフトウェアのバージョンによっては、使用できる機能が異なる場合があります)

設定

Panorama TとFL Studioの設定は以下の通りです：

- まず、Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動していない状態で、Panorama TをMCUモードに切り替えます。(Octave - と + ボタンを同時に押して、Global Settingsメニューに入り、エンコーダー8を使用して、MCUに設定します。)
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- Panorama TのMixerポートを画面例の通りに設定します。ポートが表示されない場合は画面下の“Rescan devices”をクリックします。
- Panorama TのMixer出力ポートを"155"に設定します。
- Panorama TのMixer入力ポートを有効(Enable)にし、コントローラタイプを“Mackie Control Universal”、ポートをに"155"設定します。
- 画面例の通りに設定したら、画面を閉じて、MIDI設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうか確認をします。



DAW設定ガイド - FL Studio (MCUモード)

インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、FL Studioで以下の操作が行えます。



通常時	
ボタン	機能
	グリッド吸着のオン/オフ
	巻戻し
	早送り
	停止
	再生
	録音

ナビゲーションボタン

下表はMackie Controlモードのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser			

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモード(工場出荷時のプリセット4:GM MIX1が割り当てられている場合)では、以下の操作が可能です:

- フェーダー:
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
 - フェーダー9でマスターボリュームを操作します。
- フェーダーボタン:
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
- エンコーダー:
 - 現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。

DAW設定ガイド - Ableton Live (MCUモード)

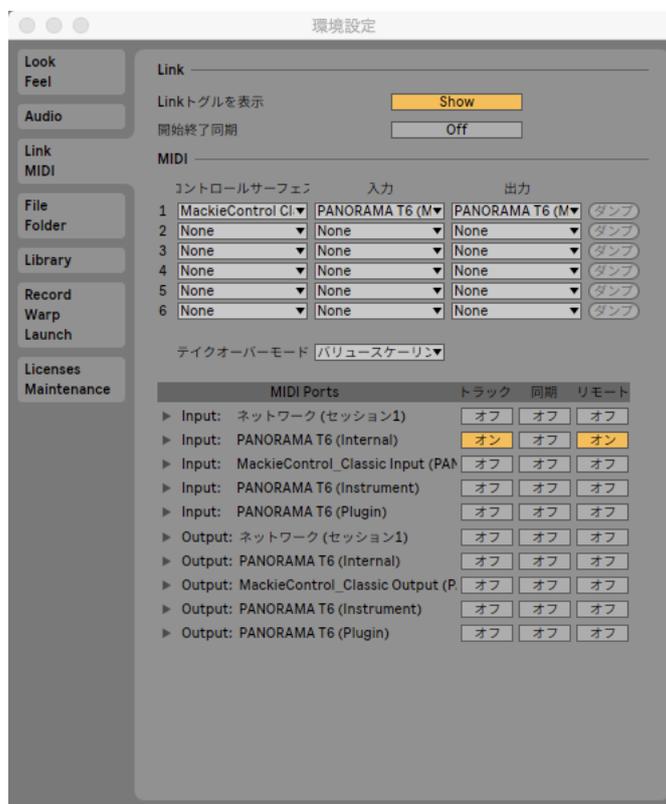
Panorama Tは、Mackie Control Universalの互換デバイスとして、Ableton Liveで扱えます。
(MCUの場合、お使いのソフトウェアのバージョンによっては、使用できる機能が異なる場合があります)

設定

Panorama TとAbleton Liveの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Liveを起動していない状態で、Panorama TをMCUモードに切り替えます。(Octave - と + ボタンを同時に押して、Global Settingsメニューに入り、エンコーダー8を使用して、MCUに設定します。)
- Liveを起動し、環境設定 > Link MIDIタブを開きます。
- コントロールサーフェスにMackieControlを選択し、その入力と出力に、Panorama TのMixerポートを設定します。
- MIDI Inputsの項目のPanorama TのInternal(一番目のポート)のトラックとリモートのみをオンにして、他のPanorama Tポートはオフにします。
- 画面例の通りに設定したら画面を閉じ、MIDI設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかを確認します。



5 DAW設定ガイド - Ableton Live (MCUモード)

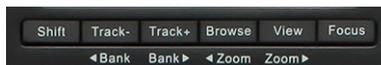
インストール、設定を完了したらPanorama Tを使用して、Liveで以下の操作が行えます。



通常時	
ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン・オフ
	巻戻し
	早送り
	停止
	再生
	録音

ナビゲーションボタン

下表はMackie Controlモードのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser			

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモード(工場出荷時のプリセット4:GM MIX1が割り当てられている場合)では、以下の操作が可能です:

- フェーダー:
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
 - フェーダー9でマスターボリュームを操作します。
- フェーダーボタン:
 - 1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
- エンコーダー:
 - 現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。

DAW設定ガイド - Studio One (MCUモード)

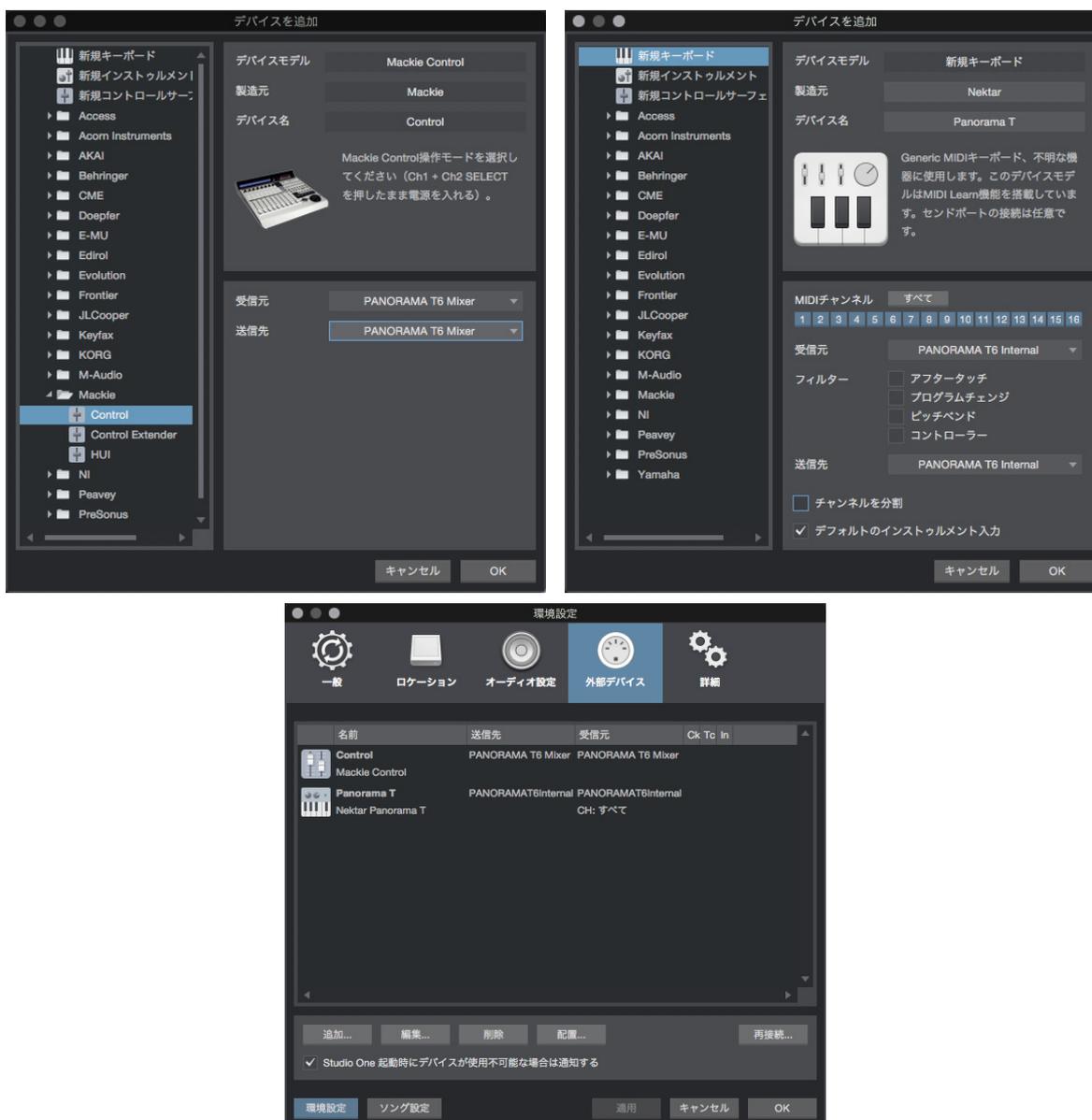
Panorama Tは、Mackie Control Universalの互換デバイスとして、Studio Oneで扱えます。
(MCUの場合、お使いのソフトウェアのバージョンによっては、使用できる機能が異なる場合があります)

設定

Panorama TとStudio Oneの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- Studio Oneを起動していない状態で、Panorama TをMCUモードに切り替えます。(Octave - と + ボタンを同時に押して、Global Settingsメニューに入り、エンコーダー8を使用して、MCUに設定します。)
- Studio Oneを起動し、環境設定 > 外部デバイスを開き、追加...ボタンをクリックします。
- デバイスを追加画面で、一覧からMackie Controlを選択し、その受信元と送信先に、Panorama TのMixerポートを設定します。
- 次に同じ手順で、新規キーボードを追加し、受信元にPanorama TのInternal(一番目のポート)を設定します。
- 画面例の通りに設定したら画面を閉じ、設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかを確認します。



DAW設定ガイド - Studio One (MCUモード)

インストールと設定を終えたら、Panorama Tを使用し、Studio Oneで以下の操作が行えます。



通常時	
ボタン	機能
	左右ロケータ間サイクル(ループ) オン/オフ
	巻戻し
	早送り
	停止
	再生
	録音

ナビゲーションボタン

下表はMackie Controlモードのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Browser			

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモード(工場出荷時のプリセット4:GM MIX1が割り当てられている場合)では、以下の操作が可能です:

- フェーダー:
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
フェーダー9でマスターボリュームを操作します。
- フェーダーボタン:
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックミュートを操作します。
- エンコーダー:
現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。

DAW設定ガイド - ProTools

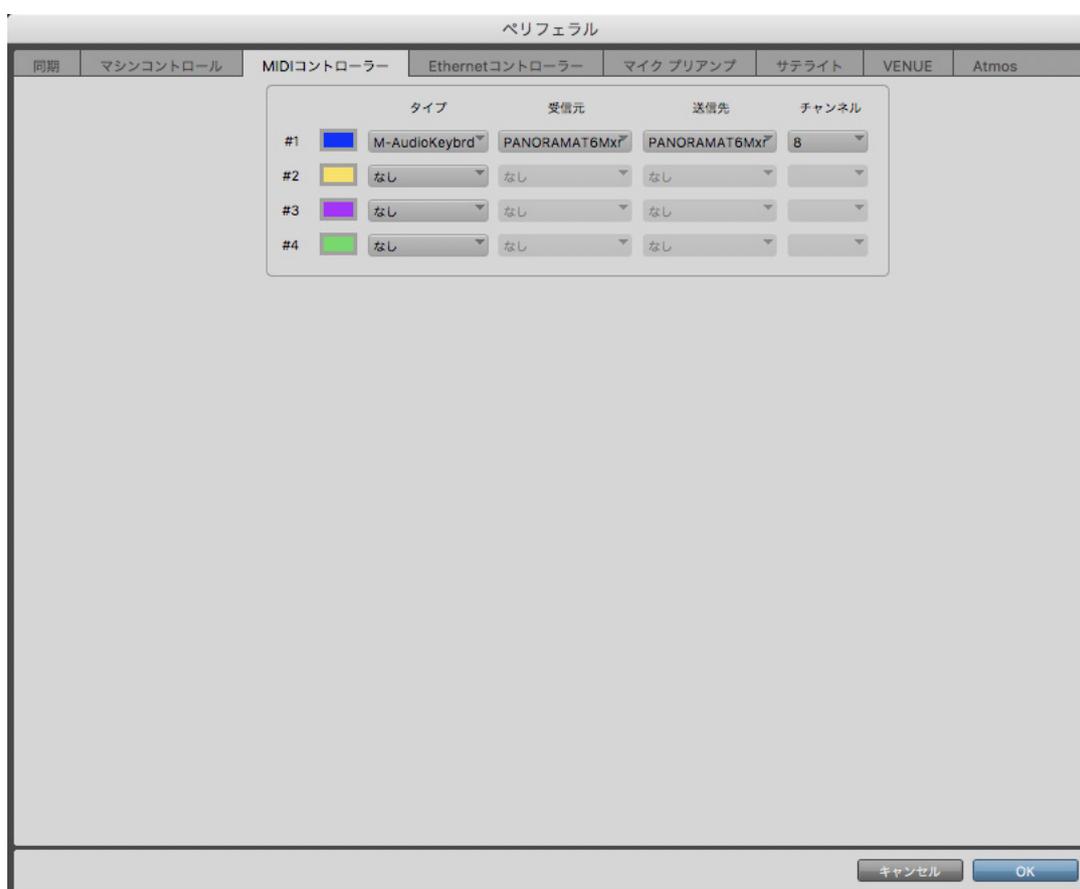
Panorama Tは、M-Audioの互換デバイスとして、ProToolsで扱えます。

設定

Panorama TとProToolsの設定は以下の通りです：

- Panorama Tのファームウェアが最新の状態であることを確認します。
- Panorama Tをコンピューターに接続し、電源を入れます。
- ProToolsを起動していない状態で、Panorama TをMCUモードに切り替えます。(Octave - と + ボタンを同時に押し、Global Settingsメニューに入り、エンコーダー8を使用して、ProToolsに設定します。)
- ProToolsを起動し、設定メニューからペリフェラルを開き、MIDIコントローラータブを選択します。
- タイプの項目で、M-AudioKeyboardを選択し、その受信元と送信先に、Panorama TのMixerポートを設定します。
- 画面例の通りに設定したら、画面を閉じて、設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうかを確認します。



DAW設定ガイド - ProTools

インストール、設定を完了したらPanorama Tを使用して、ProToolsで以下の操作が行えます。



通常時	
ボタン	機能
	巻戻し
	早送り
	停止
	再生
	録音

ナビゲーションボタン

下表はMackie Controlモードのナビゲーション操作の一覧です。



通常時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	機能	ボタン	機能
Track -	一つ前のトラックを選択	Shift + Track -	一つ前のトラックバンクに切替
Track +	次のトラックを選択	Shift + Track +	次のトラックバンクに切替
Brower			

ミキサーモード

Panorama Tのミキサーモード(工場出荷時のプリセット4:GM MIX1が割り当てられている場合)では、以下の操作が可能です:

- フェーダー:
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラック音量を操作します。
- フェーダーボタン:
1~8は現在設定されているチャンネルバンクのトラックのミュート/ソロ/選択/レコーディング待機を操作します。
フェーダーボタン9を押すごとに、ミュート/ソロ/選択/レコーディング待機の設定を切り替えられます。
- エンコーダー:
現在設定されているチャンネルバンクのトラックパンを操作します。

Nektarineとは

Nektarineは、Nektarが開発したVST/AUプラグインです。Nektarineを使うことで、Panorama T4/T6でインストールメントプラグインを拡張制御することができます。このアプローチには潜在的な欠点をはるかに凌駕する明確なワークフローのメリットがあります。

Nektarineによってできることの概要を解説します：

Nektarine - そのメリット

- VST 2.4、VST3、またはAUインストールメントプラグインをサポートしているDAWと互換性があります。
- 一度設定すると、DAWがこれらのプラグインフォーマットの1つを直接ホストすることができない場合でも、Nektarineを介してVST 2.4、VST3、またはAUプラグインを演奏、コントロールすることができます。
- 多くのメジャーなプラグインが事前マッピングされています。
- プラグインマッピングは、事前に用意されたものをカスタマイズ、またはゼロから作成できます。マッピングの変更、パラメーターの追加、パラメーター名変更等を含みます。
- Learn (ラーン) 機能を使用して、素早くコントロールの再割り当てを行えます。
- Nektarineのブラウザがプラグインパッチを読み込み、必要なサウンドを素早く見つけることができます。
- Panorama T4/T6からNektarineブラウザを操作することが可能です。
- Nektar DAWインテグレーションとの連携によってPanorama T4/T6の性能は拡張されます。

Nektarine - 導入への活路と注意点

- Nektarineを最大限に活用するには、初期設定が必要です。
- Nektarineをワークフローの一部として取り入れる場合、専用のNektarineトラックを作成し、デフォルトの曲設定を行うことをお勧めします。
- 従来のプロジェクト/曲において、挿入済みのプラグインをNektarineで使用するには設定が必要です。Nektarineをプラグインし、さらにNektarineからそのプラグインを開き直します。
- Nektarineのパラメーターマッピング機能はプラグインに含まれているパラメーターのオートメーション情報を基準に自動設定されます。NI Kontakt、UVI Workstation、Falcon 等、マルチパートのプラグインをNektarineで扱う際、音色の読み込み後、プラグイン側で操作対象のパラメーターオートメーションを有効にする必要があります。これはプラグインの規格上、1つのプラグインインスタンス(1つのインストールメントトラック)で扱えるパラメーター数に限りがあるためです。これらのプラグインはその限界をはるかに超えたパラメーターを扱えるため、オートメーション設定をプラグイン側で取捨選択する必要があります。

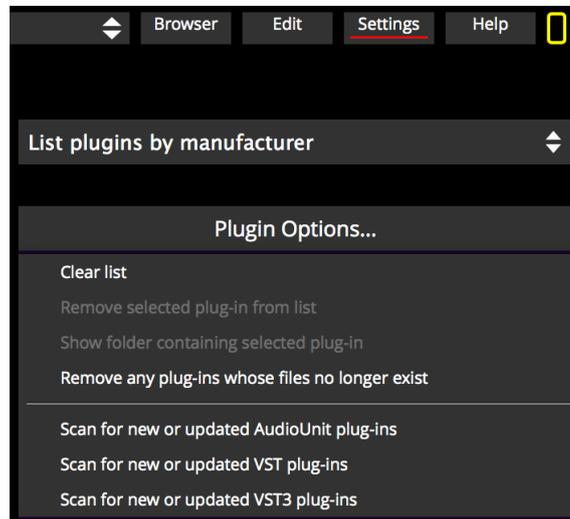


仕組みと設定

Nektarineはインストールメントを扱うためのワークフレームで、この中でインストールメントを開き、プラグインのパラメーターオートメーション情報を用いて、コントロールの割り当てを行います。よって、Nektarineを最初に起動する際に、プラグインの検出が必要です。

プラグインの検出

Nektarineを起動後、はじめにすでにコンピューターにインストールされているプラグインの検出を行います：

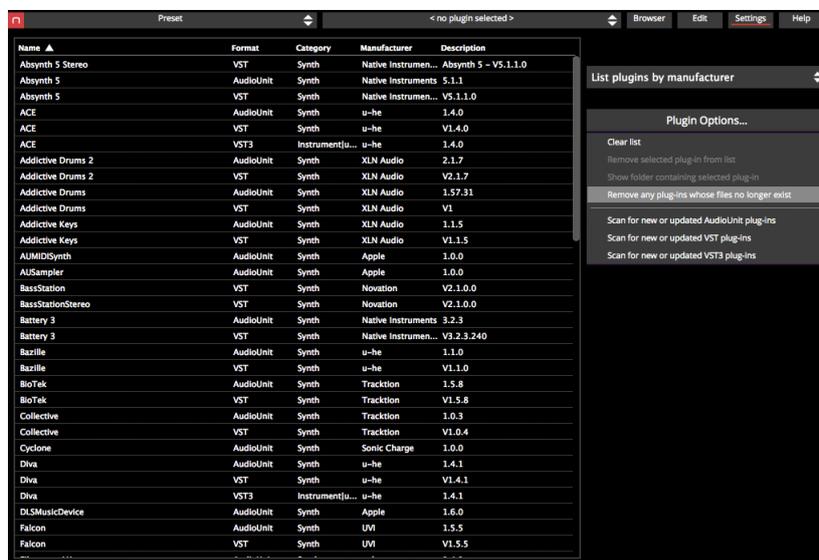


DAWのインストールメントトラックにNektarineを追加します。

Nektarineが開いたら、Settingsボタンをクリックします。

Plugin Options...の箇所から"Scan for new or updated..."オプションのAU、VST、VST3のいずれかをご利用の環境に合わせて選択して検知を実行し、完了までしばらく待ちます。この検出作業はエフェクトを含め全てのプラグインを検出しますので、それに応じた時間を要します。

検出が終わると一覧にインストールメントプラグインが表示されます。



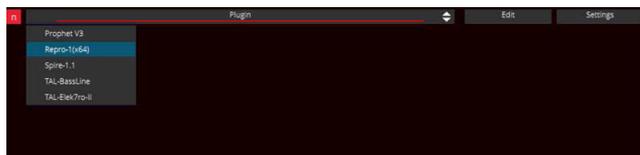
*プラグインを追加インストールした際や、バージョンを更新した際は、この操作を再度行なって下さい。

不要なインストールメントはリストで選択後、Plugin Options...メニューから"Remove selected from list"を実行します。

ファイルが存在しないインストールメントは"Remove any plug-ins whose files no longer exist"で削除できます。

インストゥルメントを開く

検出終了したプラグインは画面の上端の"Plugin"メニューから開くことが可能です。

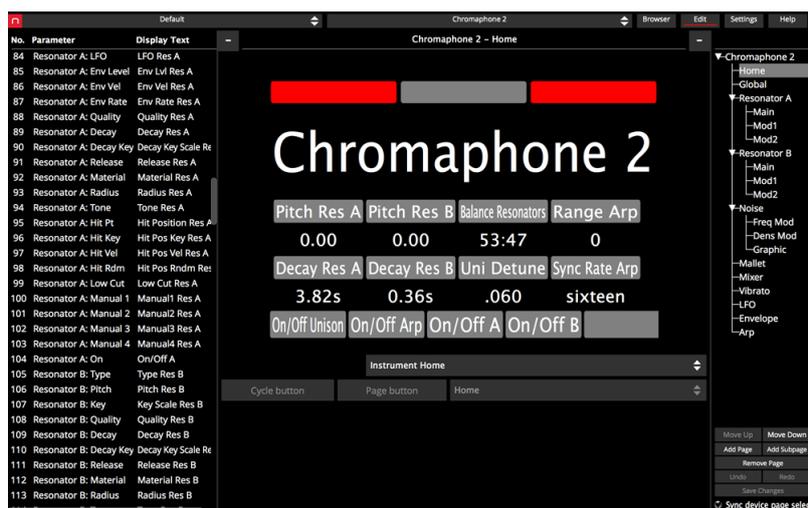


開いたプラグインは、普段DAWで扱う際と同様に、プラグイン画面がNektarine内に表示されます。画面サイズが合わない時は、Nektarineの右下のマウスドラッグで、Nektarineの画面サイズを変更してください。



インストゥルメントのコントロール設定

Nektarineはプラグイン規格に準じたオートメーション情報に従い、自動でパラメーターが割り振られますので、通常は即座にパラメーター操作が可能になります。EDITボタンを押せば、検出したパラメーターの割り当てを確認することが可能で、中央の画面はPanorama Tのディスプレイと連動するため、操作の助けになるでしょう。ただし、プラグインの仕様によって、全てが一緒というわけではありません。



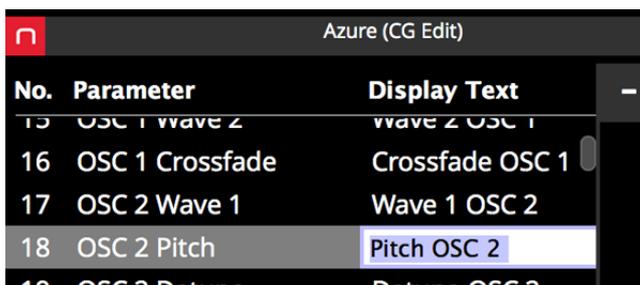
NI KontaktやUVI Workstation、Falcon 等のマルチパートプラグインはその仕様上、プラグイン規格で定められているオートメーション数(およそ250)をゆうに超えていることと、読み込んだ音色によってパラメーターの扱い方が異なるため、このようなプラグインはあらかじめ、音色ごとにオートメーション設定をプラグイン側で設定する必要があります。これよって、Nektarineが設定されたパラメーターを自動検出し、コントロールが割り振られます。設定したプラグインのプリセットをNektarineでプリセット保存しておくことで、再設定をする必要はなくなります。

以下EDIT画面の概要になります：

パラメーターリスト：

画面左には開いたインストゥルメントのパラメーター一覧が表示されます。

- Parameter: インストゥルメントのパラメーター名を示します。
- Display Text: Panorama Tで表示されるパラメーター名を示します。ダブルクリックで名称変更ができます。

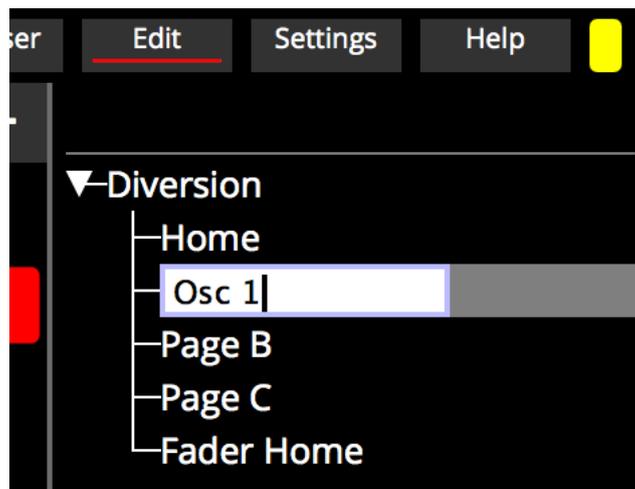


ページリスト:

画面右は、Panorama Tで扱う際のコントロールページ一覧を表示し、ここで選択したページが画面中央に表示されます。また、リスト下にはページ操作オプションが用意されています。

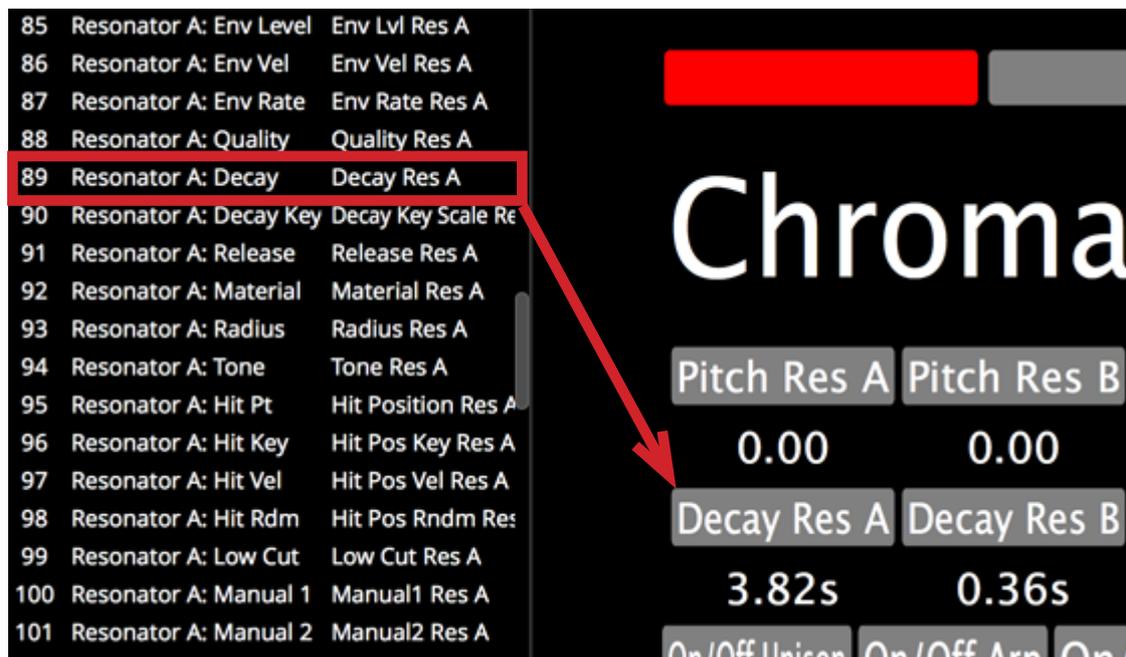
- Move Up: 選択したページを上に移動します。
- Move Down: 選択したページを下に移動します。
- Add Page: コントロールページを追加します。
- Add SubPage: コントロールサブページを追加します。(最大4)
- Remove Page: 選択したページを削除します。
- Undo: 設定変更を取り消します。
- Redo: 取り消した変更を戻します。
- Save Changes: 設定を保存します。
- Sync device page select: Panorama Tのページ画面と連動するかどうかを設定します。

ページ名のダブルクリックで名称変更ができます。



メインエリア:

画面中央の領域は、Panorama Tの表示に準じた状態を示し、音色名とページで設定されているパラメーターが表示されます。ここではページごとに8つのパラメーターと4つのディスプレイボタンの設定が可能です。



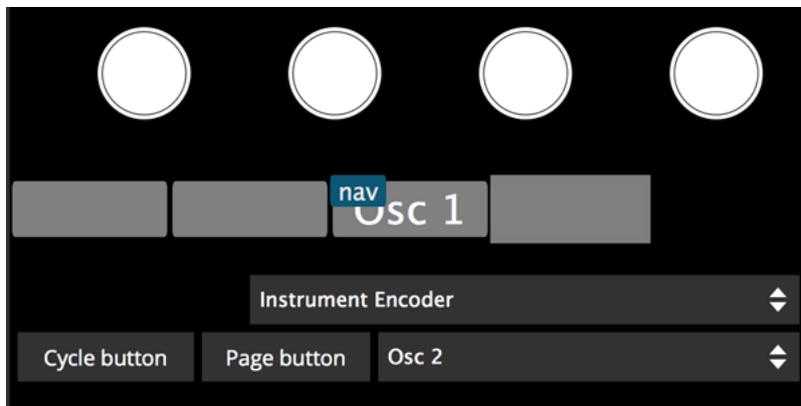
パラメーターの割り当ては、左のリストから画面上のアイテムにドラッグ&ドロップします。

Nektarine

画面下のメニューで、表示方法を設定します。ホーム画面やエンコーダー表示、フェーダー表示などが選択可能です。



ディスプレイボタンは、操作パラメーターの設定以外に、ページ切り替えを設定することも可能です。



以下、画面例に従った手順です：

ページ"Osc 1"に割り済みのボタン3の隣のボタン4をクリック選択します。

Page buttonの項目をメニューから"Osc 2"を選択し、"Page button"をクリックします。

設定の保存

設定したコントローラー割り当ては、オプションのSave Changesのクリックで保存することができます。

保存をすることでインストールメントと紐付けられ、Nektarineでそのインストールメントを開くと同時にすぐ利用できるようになります。

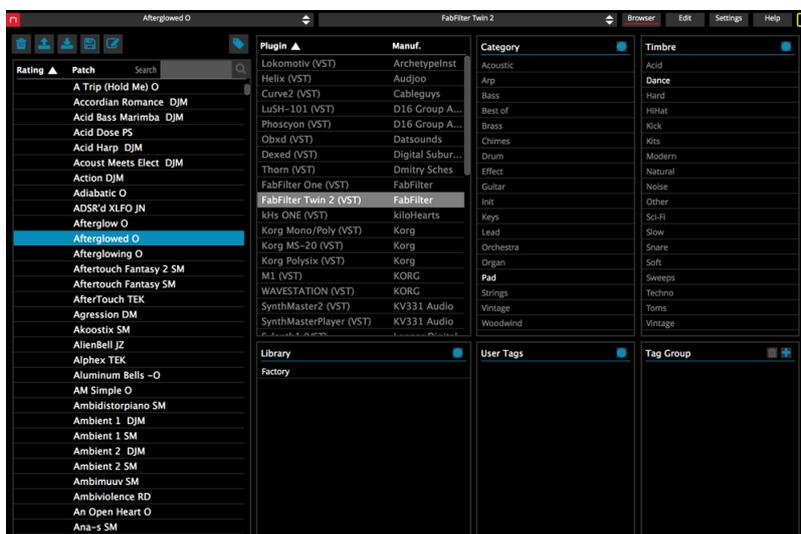
プリセット

プリセットはNektarineをより快適に扱うための設定で、インストールメント自体の音色設定とPanorama Tのコントロール設定を扱います。プリセットはご自身で作成する以外にも、主要プラグインに対してはカスタマイズされたプリセットが用意されていますので、ダウンロードして読み込むことでプラグインによっては再設定をする手間が省かれます。

http://support.nektartech.com/Downloads/Nektarine/Nektarine_Browser_library.zip

プリセットブラウザー

Nektarineで設定したプリセットは専用ブラウザーによって管理と操作が可能で、タグ付け等を行うことで操作時により素早く目的の音色にたどり着くことができます。

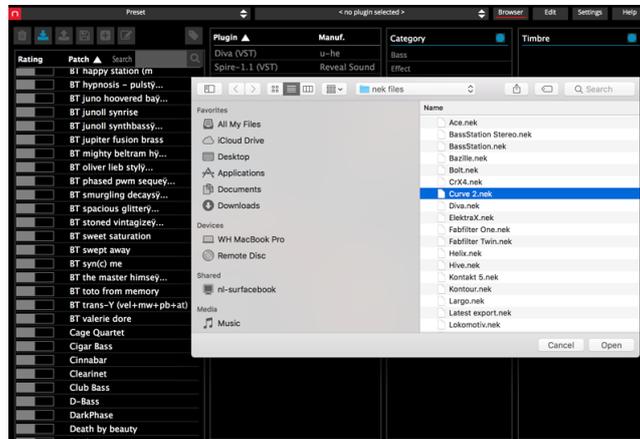


画面左がプリセット一覧で、その右にプラグイン、カテゴリー、音色、ライブラリー、ユーザータグ、タググループの6つのタグ項目が用意されています。

保存済みプリセットのインポート

お使いのインストールメントのNektarineプリセットが用意されている場合、まずはそのプリセットをインポートしましょう。手順は次の通りです：

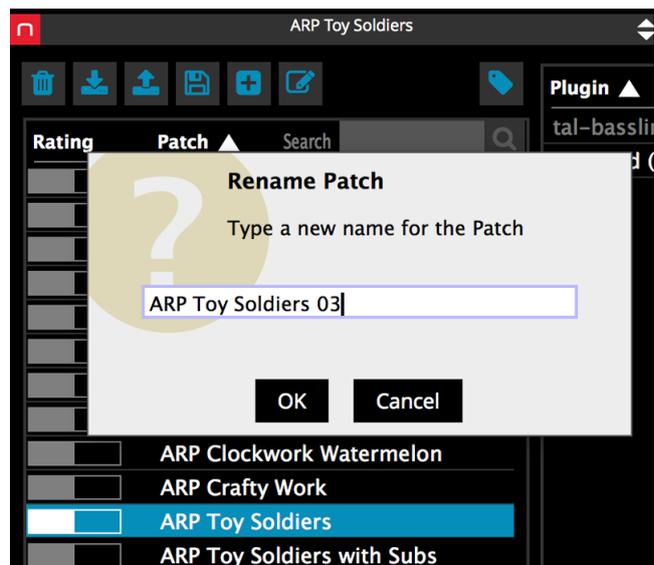
- Nektarineの"Brower"タブをクリックしてブラウザ画面を表示します。
-  インポートボタンをクリックして、ダウンロード済みのプリセットファイルから目的のインストールメントの.nekファイルを開きます。
- 確認画面で"OK"をクリックして、取り込みを実行します。
- 読み込みが完了すると、プリセットが一覧に表示されます。



プリセット設定

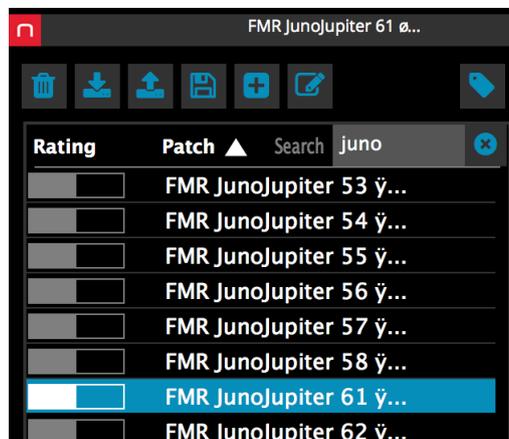
プリセット欄の上には操作ボタンが用意されています：

-  選択したプリセットを削除します。
-  保存済みのプリセットをインポートします。
-  選択したプリセットをエクスポートします。
-  選択したプリセットを保存します。
-  プリセットを新規作成します。
-  選択したプリセットの名称を変更します。
-  選択したプリセットのタグを設定します。



プリセットのレーティング

プリセット欄にはレーティング機能があり、頻度やお気に入り度合いに合わせてプリセット名左横のバググラフのドラッグで設定することができます。



プリセットの選択と絞り込み

プリセットの選択は、プリセットメニュー、あるいはブラウザー画面のプリセット一覧から行います。

ブラウザーの検索やタグ機能を使用することで、プリセットをさらに絞り込むことが可能です。



以下、各タグの概要になります：

- Plugin: インストールメント名と開発元を表示します。
- Category: 音色カテゴリーを基準にしたタグです。
- Timbre: 音色の種類を基準にしたタグです。
- Library: ファクトリーやユーザなど、音色ライブラリーに関するタグです。
- User Tags: ユーザー設定のタグです。
- Tag Group: カスタムにタグ設定を呼び出す際に使用します。設定方法は次の通りです：
 - 絞り込みをするタグを設定します。
 - タググループの+ボタンをクリックします。
 - ダイアログ画面でタグ設定に名前をつけて、OKボタンのクリックで、タググループが保存されます。
 - タググループの削除は、グループを選択して、ゴミ箱アイコンをクリックします。

複数タグの選択と絞り込みオプション

以下の操作で複数のタグ選択と絞り込みが可能です：

- command (mac) / ctrl (win) + クリックで複数のタグの選択が可能です。
- タグ欄右上の●ボタンで、タグ選択時のオプション操作が可能で、
 - = And: 選択したタグで絞り込まれます。
 - ⊕ = Or: 選択したタグのいずれかで絞り込まれます。
 - ⊖ = Not: 選択したタグを除外します。

NektarineとPanorama T

Nektarineは、それ自身でも優れたインストゥルメントプリセット管理ソフトウェアとして便利ですが、Nektar Panorama Tと連動することで、より快適で滑らかなインストゥルメントコントロールを実現します。

DAWのインストゥルメントトラックにNektarineが追加されると、Panorama Tのインストゥルメントとマルチモードで操作可能になります。

インストゥルメントモード

DAWのインストゥルメントトラックにNektarineが追加されると、Panorama Tのインストゥルメントモードで、各パラメーターの操作が可能になります。

マルチモード

Panorama Tのマルチモードでは、DAWのインストゥルメントトラックに追加されたNektarineのレイヤーコントロールが可能になります。

Nektarineは、スムーズでストレスのないインストゥルメントコントロールとプラグイン管理機能以外に、複数のプラグインをレイヤーし1つのインストゥルメントとして扱うことが可能です。マルチモードでは、最大8つまでインストゥルメントを重ね、ミキシングすることができます。以下、各部の操作概要です。

- **フェーダー:**
1~8は現在設定されているレイヤーの音量を操作します。
- **フェーダーボタン:**
1~8は現在設定されているレイヤーミュートを操作します。
フェーダーボタン9を押しながらの1~8の操作で、トラックソノを操作します。
- **エンコーダー:**
現在設定されているレイヤーのパンを操作します。

Nektarineでのレイヤーの追加

Nektarineでインストゥルメントレイヤーを追加する方法は以下の通りです:

- NektarineをDAWのインストゥルメントトラックに追加します。
- 最初のインストゥルメントを追加します。
- 画面下端の+の領域をクリックします。(表示されない場合は画面左下のドラッグで表示領域を広げて下さい。)
- 次のインストゥルメントを選択します。
- 上記の操作を繰り返すことで最大で8つまでのインストゥルメントを重ねることが可能です。



www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar